

第 2 回
村上市立地適正化計画
推進懇談会

令和8年2月17日

(1) 村上市の現況

① 人口

- 人口減少が加速し令和32年には現状（令和2年）の約半分まで減少
- 年少人口、生産年齢人口の減少が続き、高齢化が進行（令和32年で約5割）

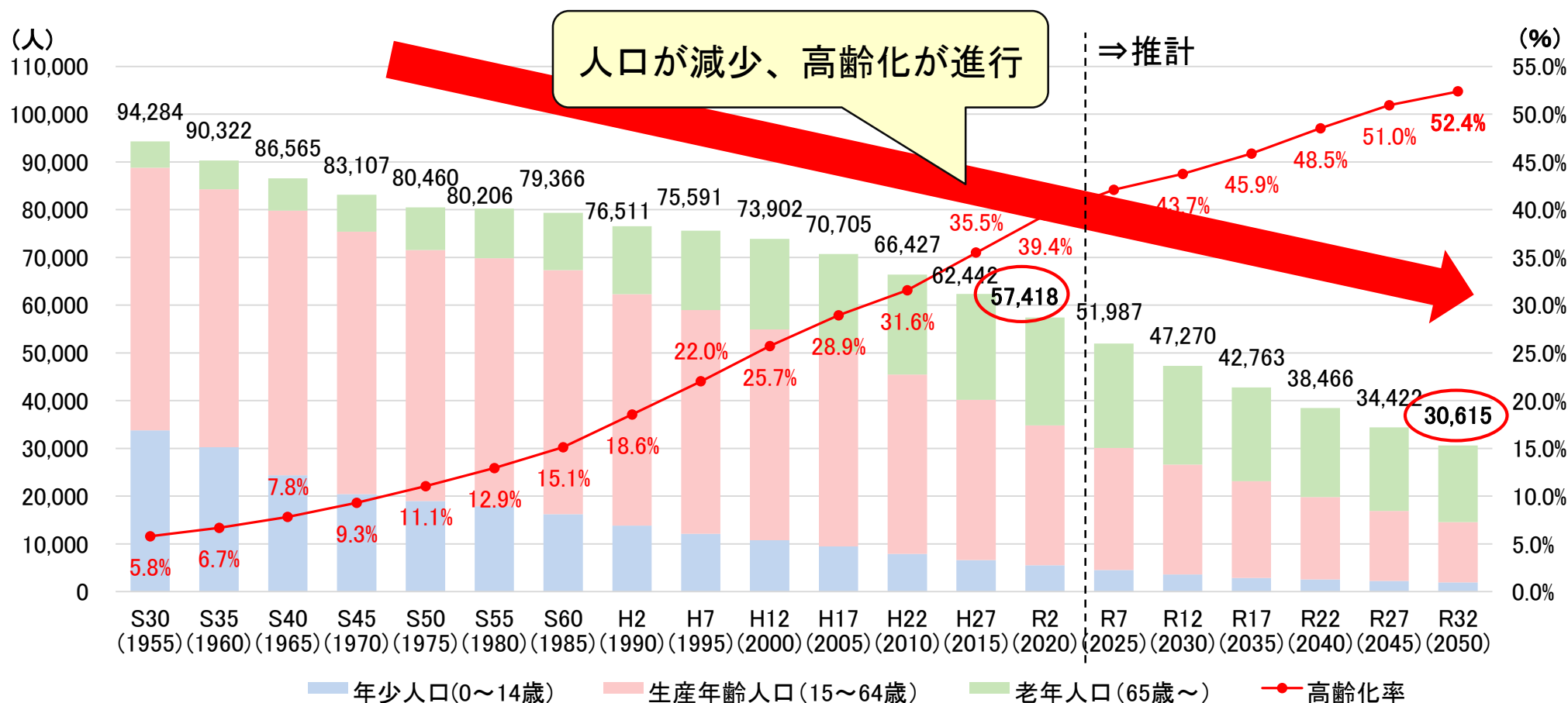


図 年齢区分別人口・高齢化率の推移及び推計 出典：国勢調査、社人研

① 人口

- DID人口密度は減少を続け令和2年には40人/haを下回る
- 村上駅西側や用途地域の北端部・南端部にかけてDIDが拡大

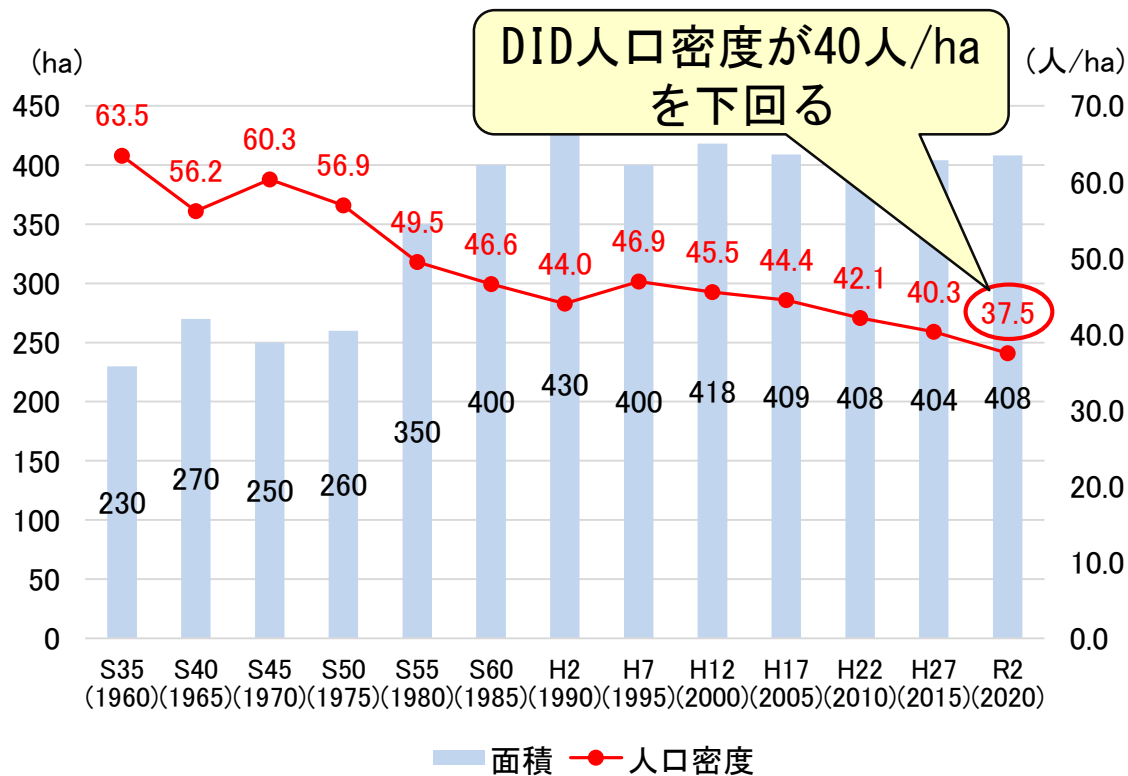


図 DID面積及び人口密度の推移

出典：国勢調査

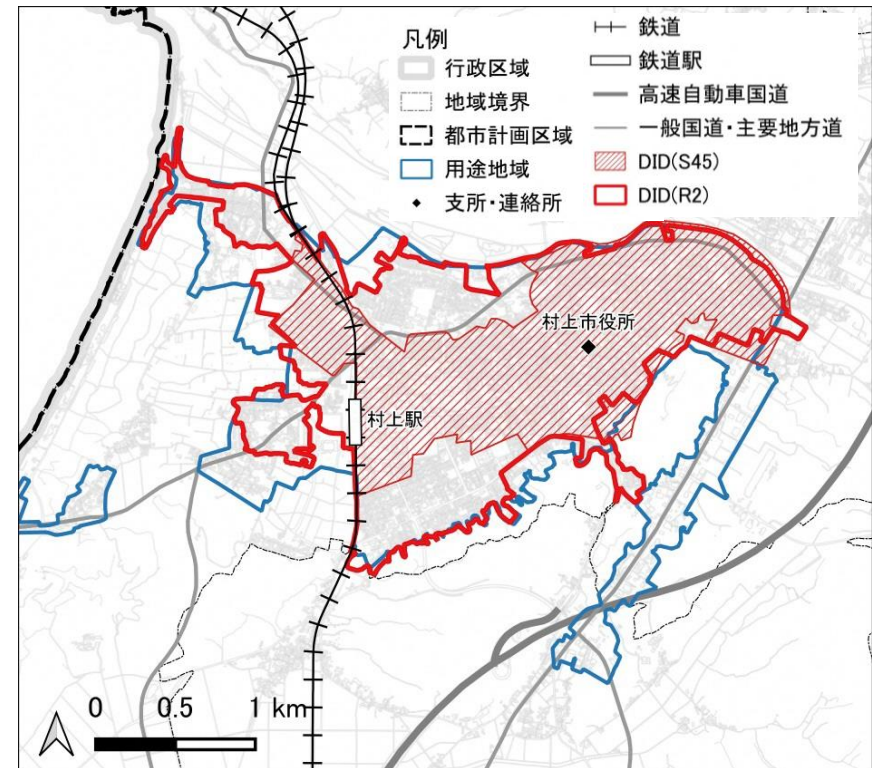


図 DIDの変遷

出典：国勢調査

① 人口

■ 村上駅東側や岩船市街地で人口密度が高くなっている

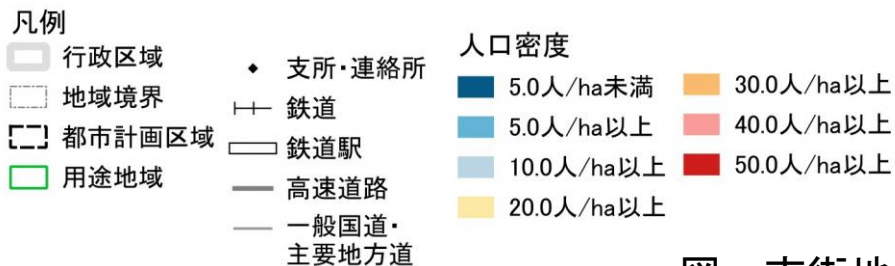
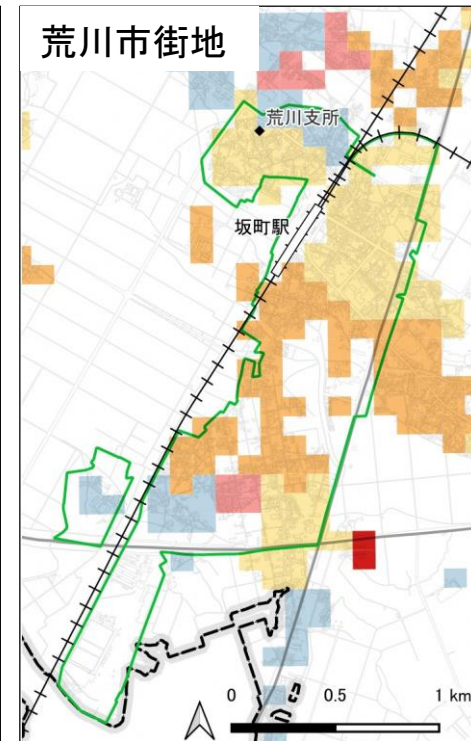
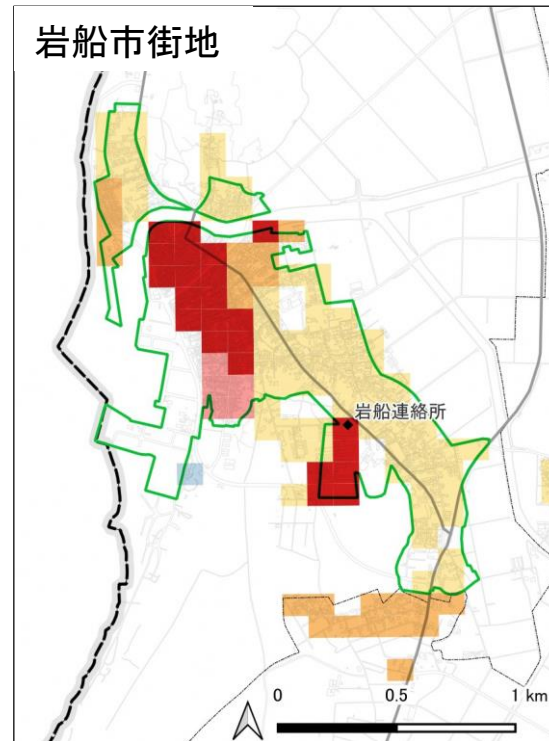
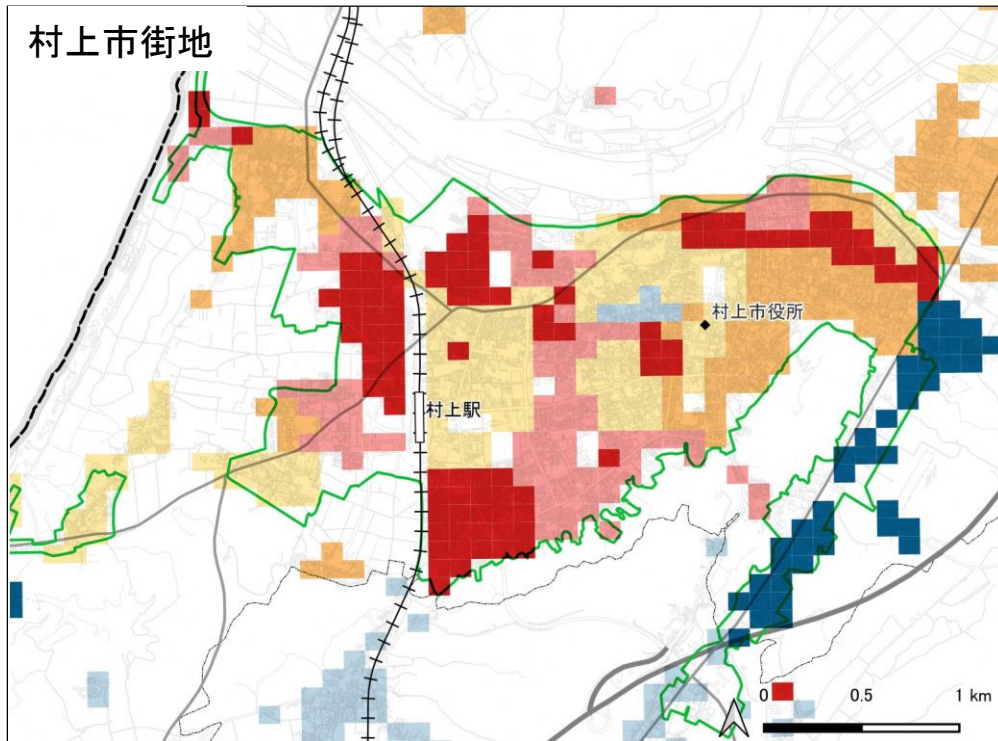


図 市街地の人口分布（令和2年）

出典：国勢調査

① 人口

■ 村上駅東側や岩船で人口減少が進み、高齢化率も上昇すると予測される

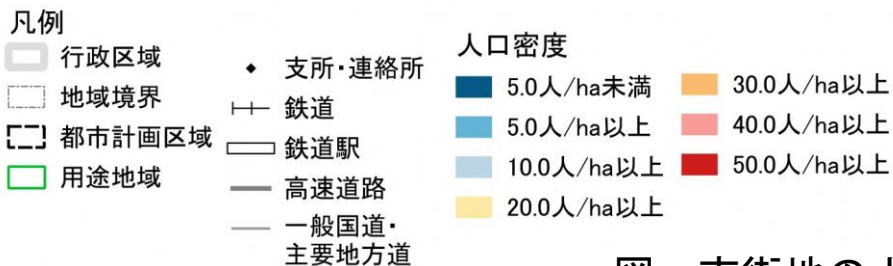
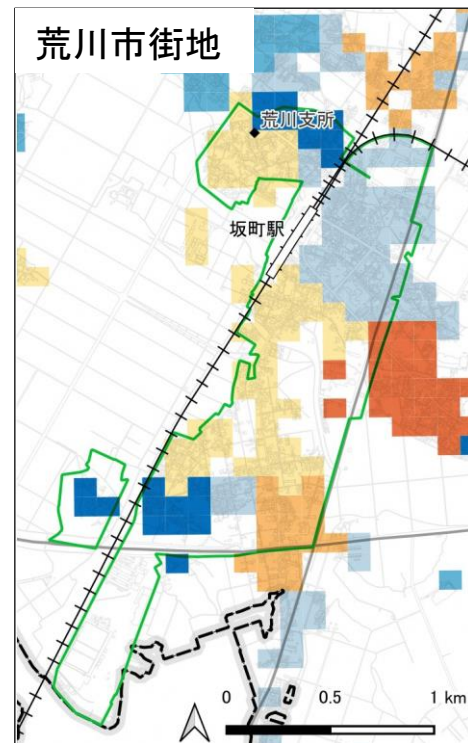
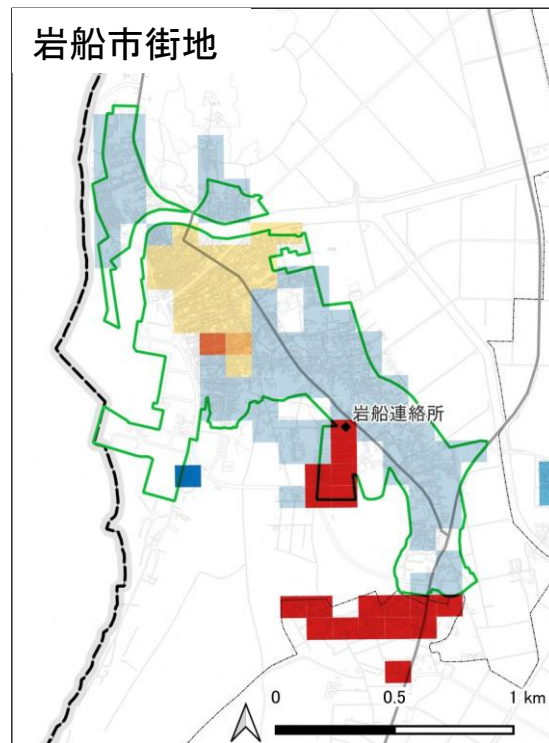
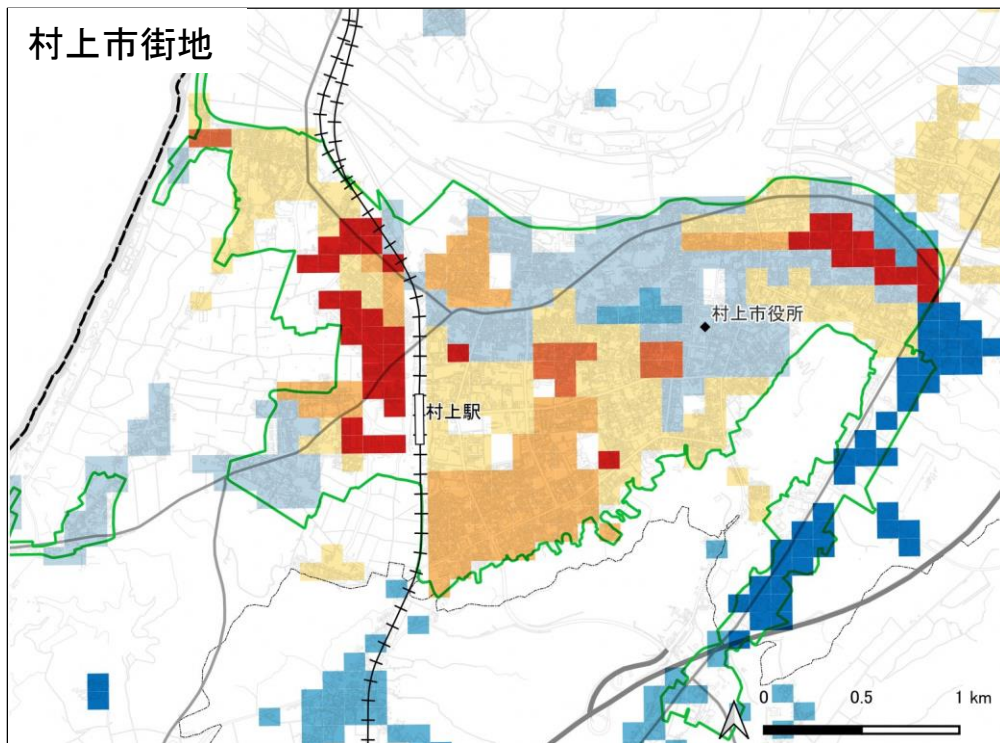


図 市街地の人口分布（令和27年）※推計

出典：国勢調査

② 土地利用

- 村上駅東側は住宅や商業施設等が混在し、公共公益施設も多い
- 村上市街地や荒川市街地の国道7号沿道に大型の商業用地が存在

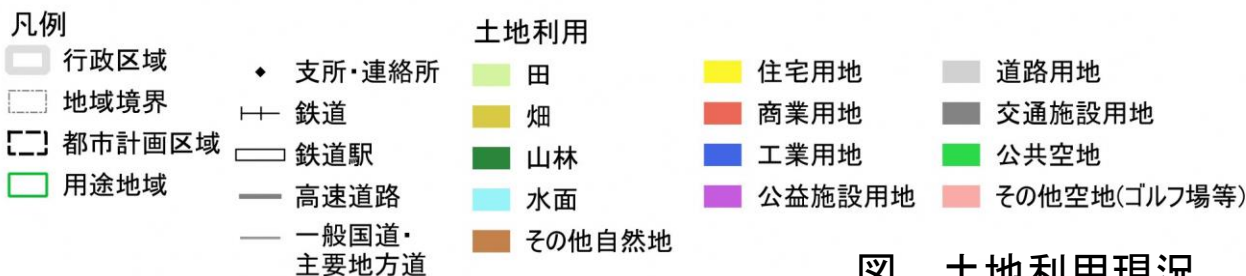
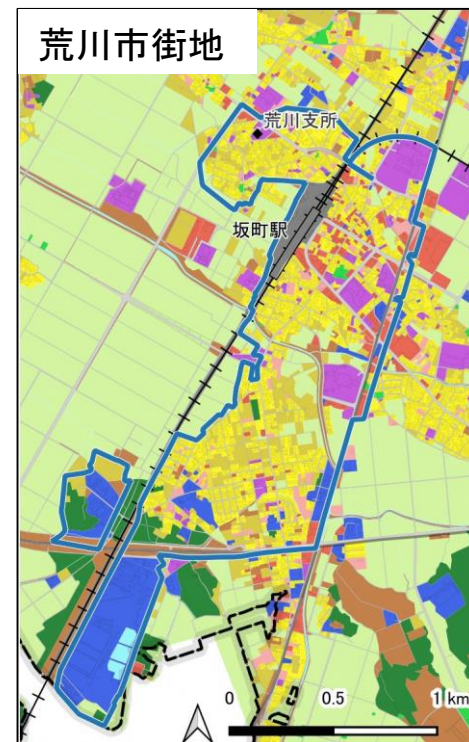
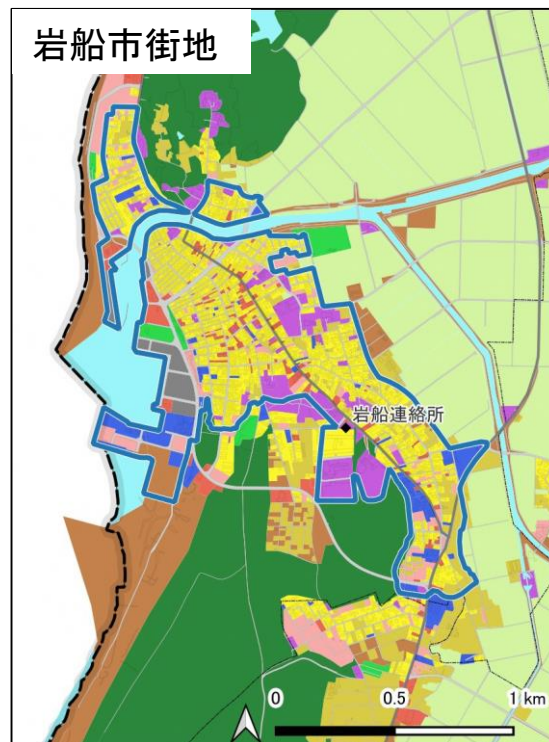
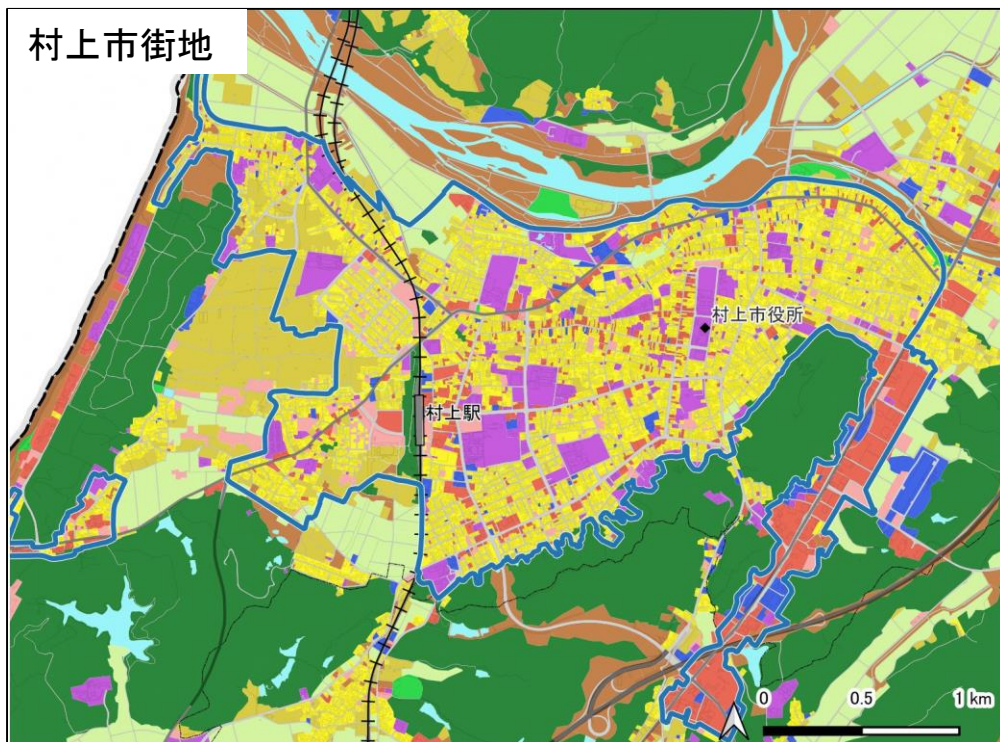
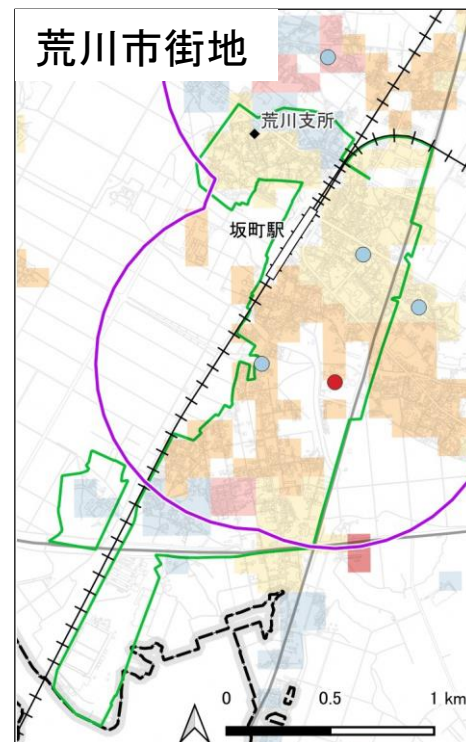
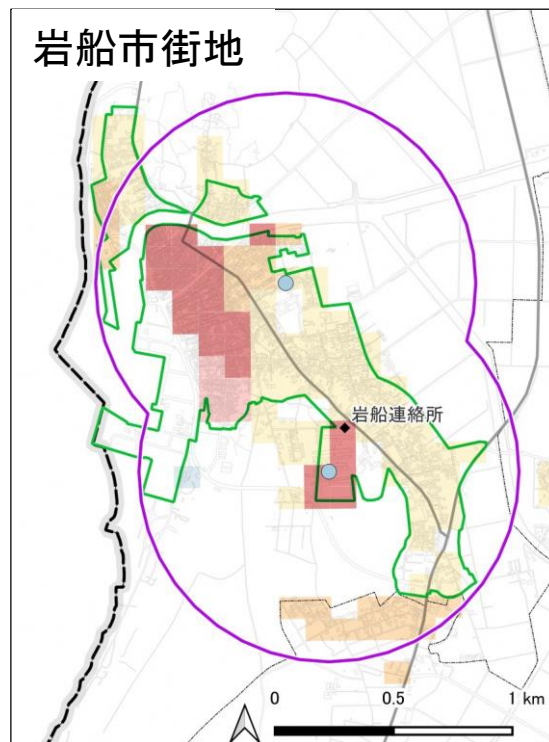
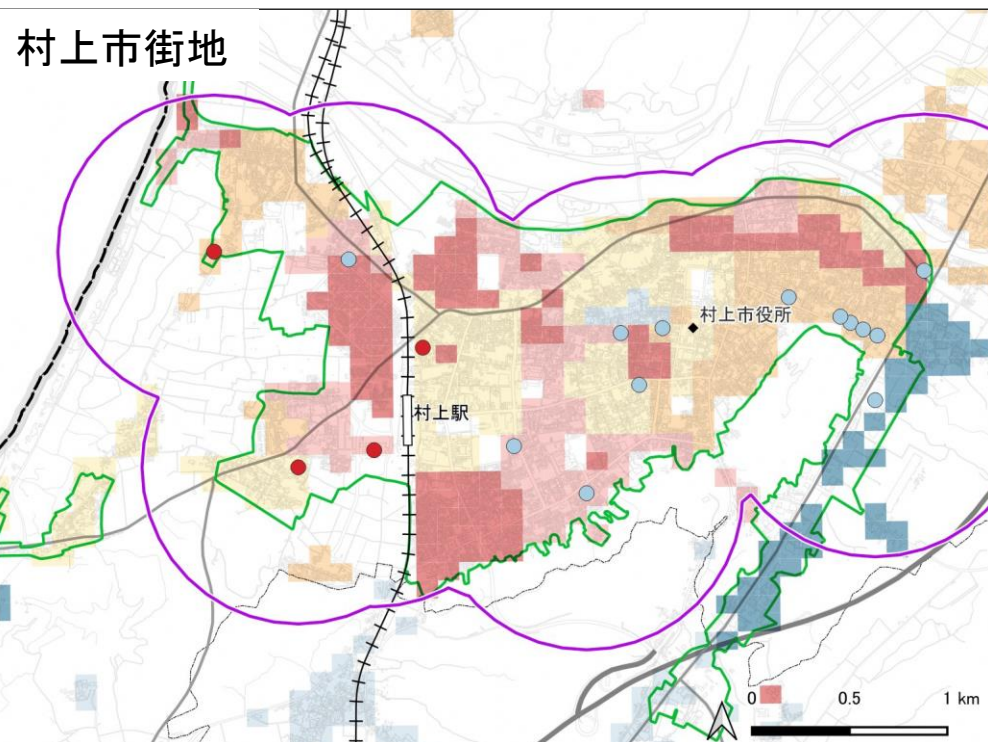


図 土地利用現況

出典：村上市都市計画基礎調査 (H30)

③ 都市機能（医療）

- 医療施設の半数以上が村上市街地に分布し、他市街地にも分布
- 概ね市街地の全域が医療施設の徒歩圏内



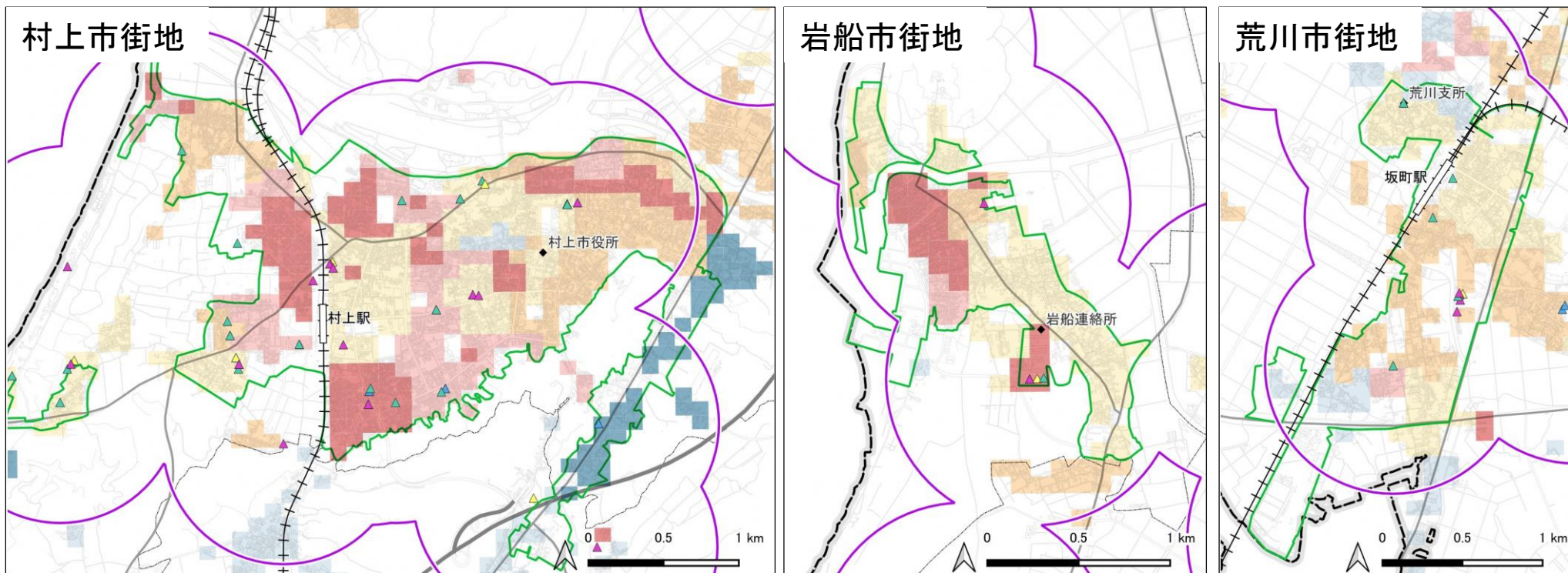
- 凡例
- | | | | |
|--|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 行政区域 地域境界 都市計画区域 用途地域 | <ul style="list-style-type: none"> 支所・連絡所 鉄道 鉄道駅 高速道路 一般国道・主要地方道 | <p>人口密度(R2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5.0人/ha未満 5.0人/ha以上 10.0人/ha以上 20.0人/ha以上 30.0人/ha以上 40.0人/ha以上 50.0人/ha以上 | <p>医療施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 病院 診療所 医療施設800m |
|--|---|--|---|

図 医療施設の分布状況

出典：村上市医療施設一覧(R5.7)をもとに作成

③ 都市機能（福祉）

- 各市街地において通所・入所・訪問全ての施設が分布
- 概ね市街地の全域が福祉施設の徒歩圏内



- 凡例
- 行政区域
 - 地域境界
 - 都市計画区域
 - 用途地域
 - 支所・連絡所
 - 鉄道
 - 鉄道駅
 - 高速道路
 - 一般国道・主要地方道
- 人口密度(R2)
- 5.0人/ha未満
 - 5.0人/ha以上
 - 10.0人/ha以上
 - 20.0人/ha以上
 - 30.0人/ha以上
 - 40.0人/ha以上
 - 50.0人/ha以上
- 高齢者福祉施設
- 通所
 - 入所
 - 訪問
 - その他
 - 高齢者福祉施設800m

図 福祉施設の分布状況 出典：村上市介護サービス事業所一覧(R5.4)をもとに作成

③ 都市機能（商業）

- 村上市街地内のほか、幹線道路沿道に多数の商業施設が分布
- 瀬波地区や岩船市街地北側が商業施設の徒歩圏外

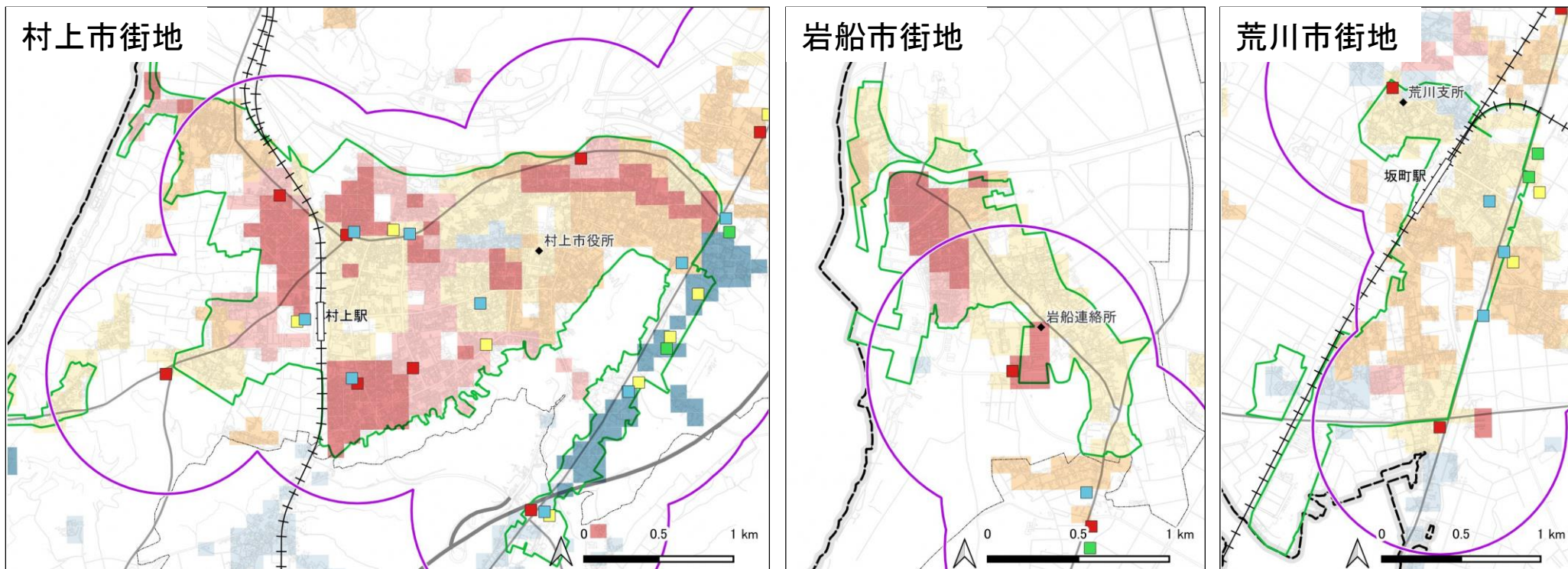
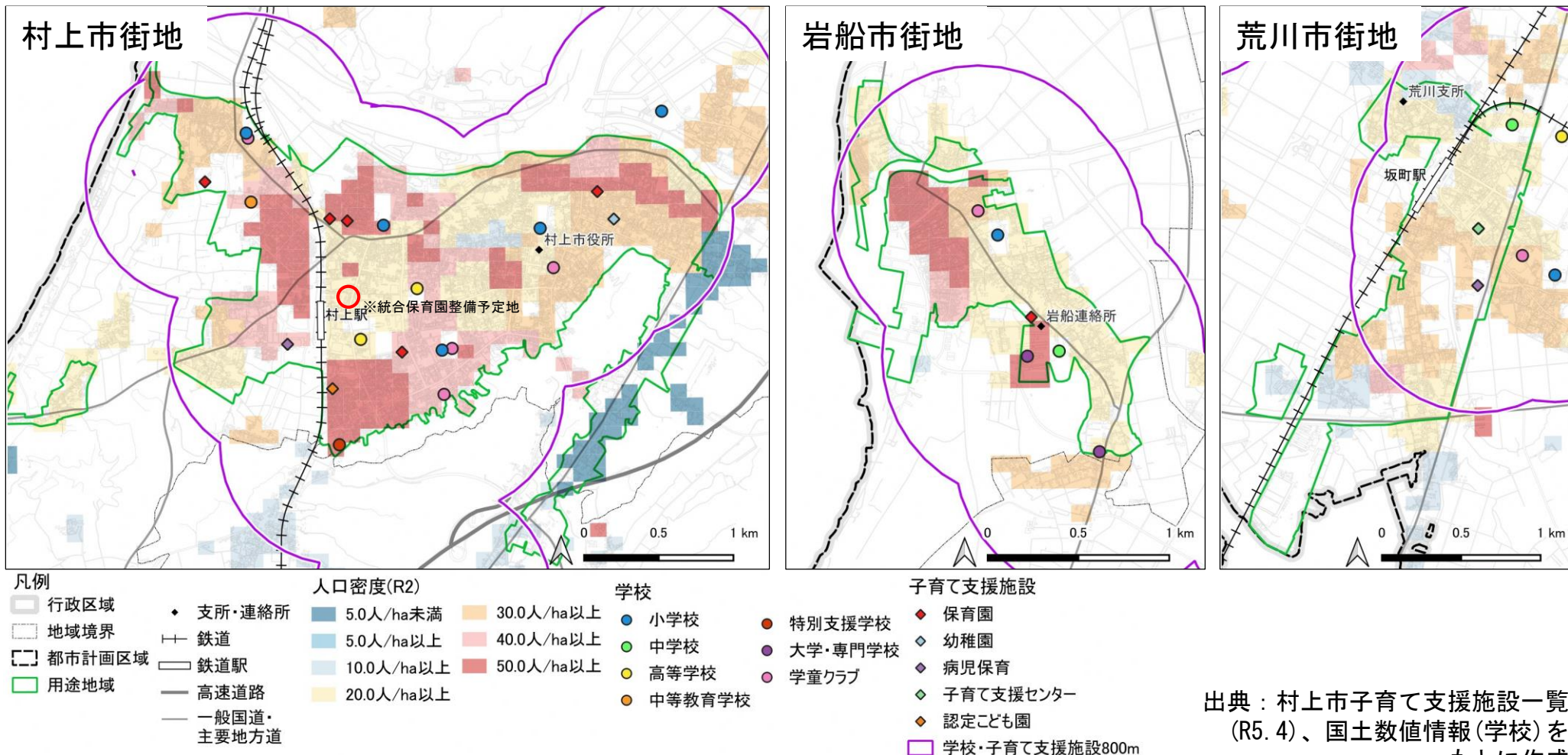


図 商業施設の分布状況

③ 都市機能（教育・子育て支援）

- 教育・子育て支援施設は市街地内に多く分布し、市街地外にも分布
- 村上駅前の大規模跡地内に統合保育園や複合施設が整備予定

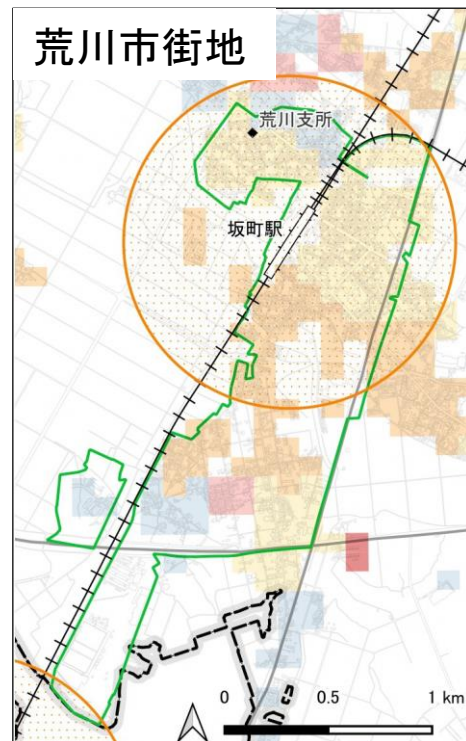
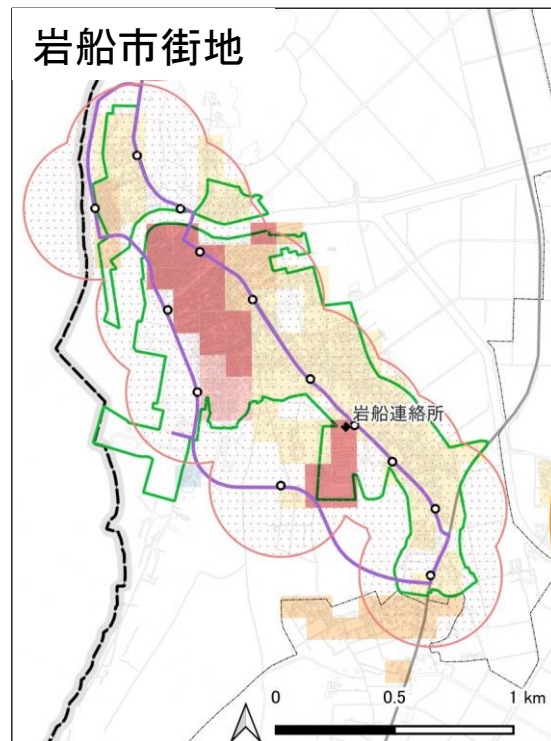
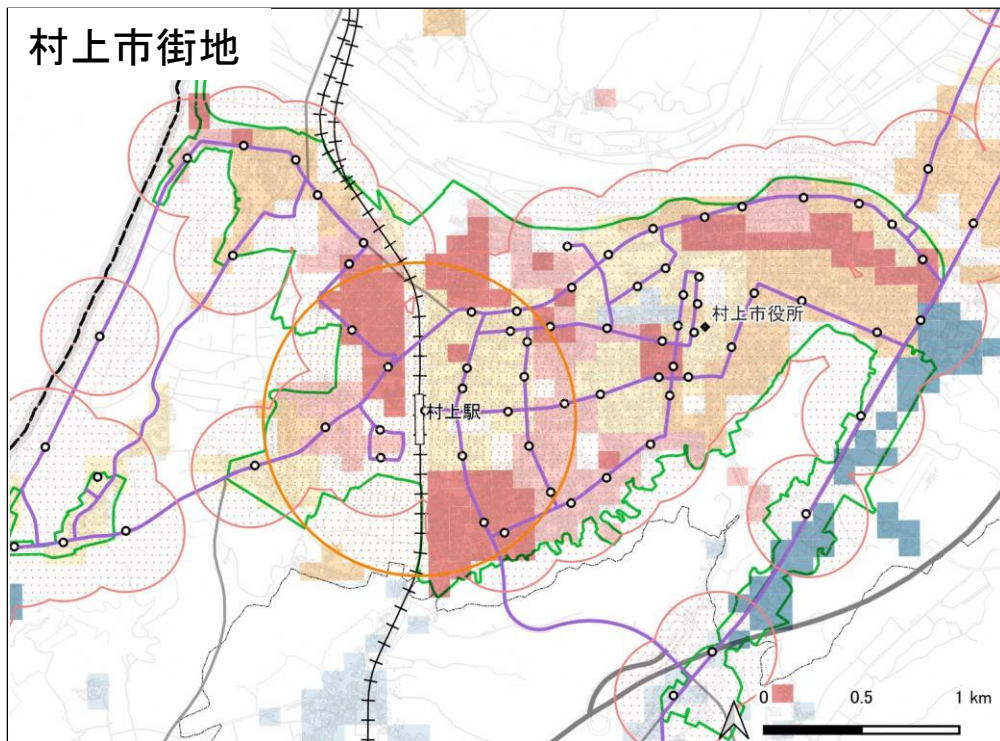


出典：村上市子育て支援施設一覧 (R5.4)、国土数値情報(学校)をもとに作成

図 教育・子育て支援施設の分布状況

④ 公共交通

■ 市内の公共交通は鉄道、路線バス、コミュニティバス、のりあいタクシーが運行し、村上市街地、岩船市街地はほぼ全域が利用圏内



凡例		人口密度(R2)	鉄道	バス
	行政区域			
	地域境界			
	都市計画区域			
	用途地域			
	支所・連絡所			

図 公共交通網

④ 公共交通

■ 村上市街地を循環する路線で運行頻度が一日30本超

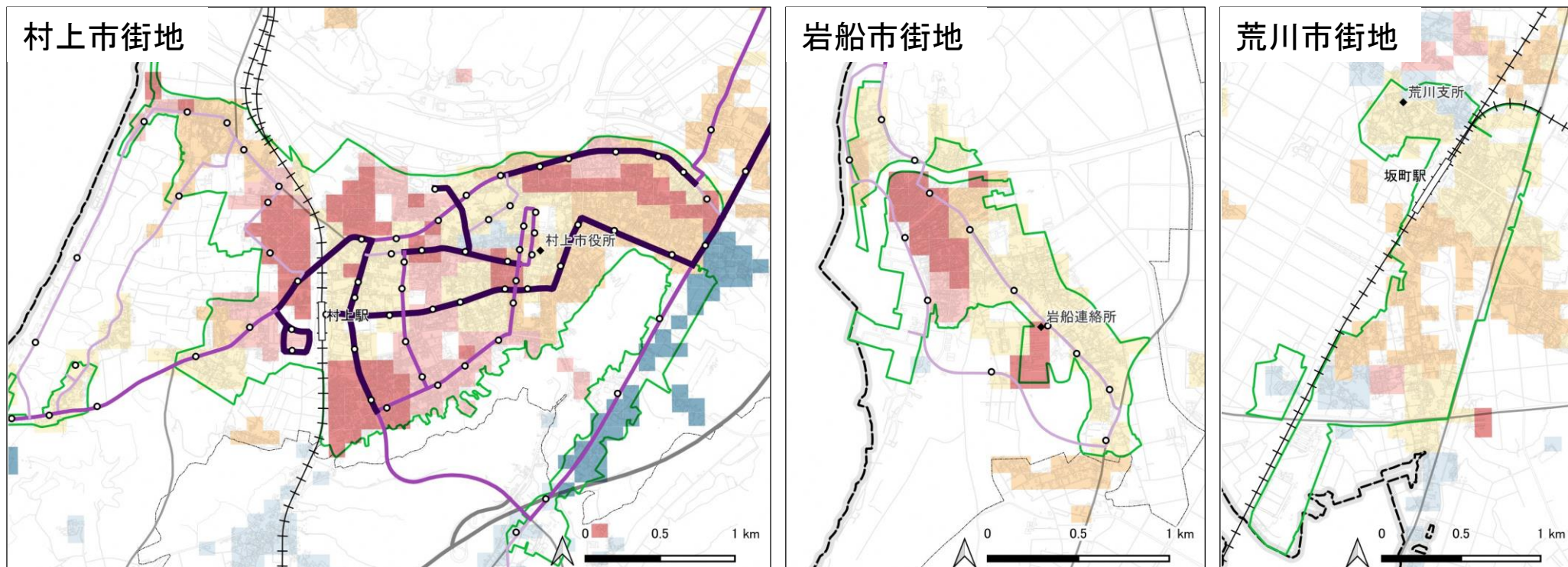


図 バスの運行頻度

⑤ 財政

■ 建築後30年以上の公共施設が全体の約6割を占め、今後これらの更新等にかかる費用が集中的に発生する恐れがある

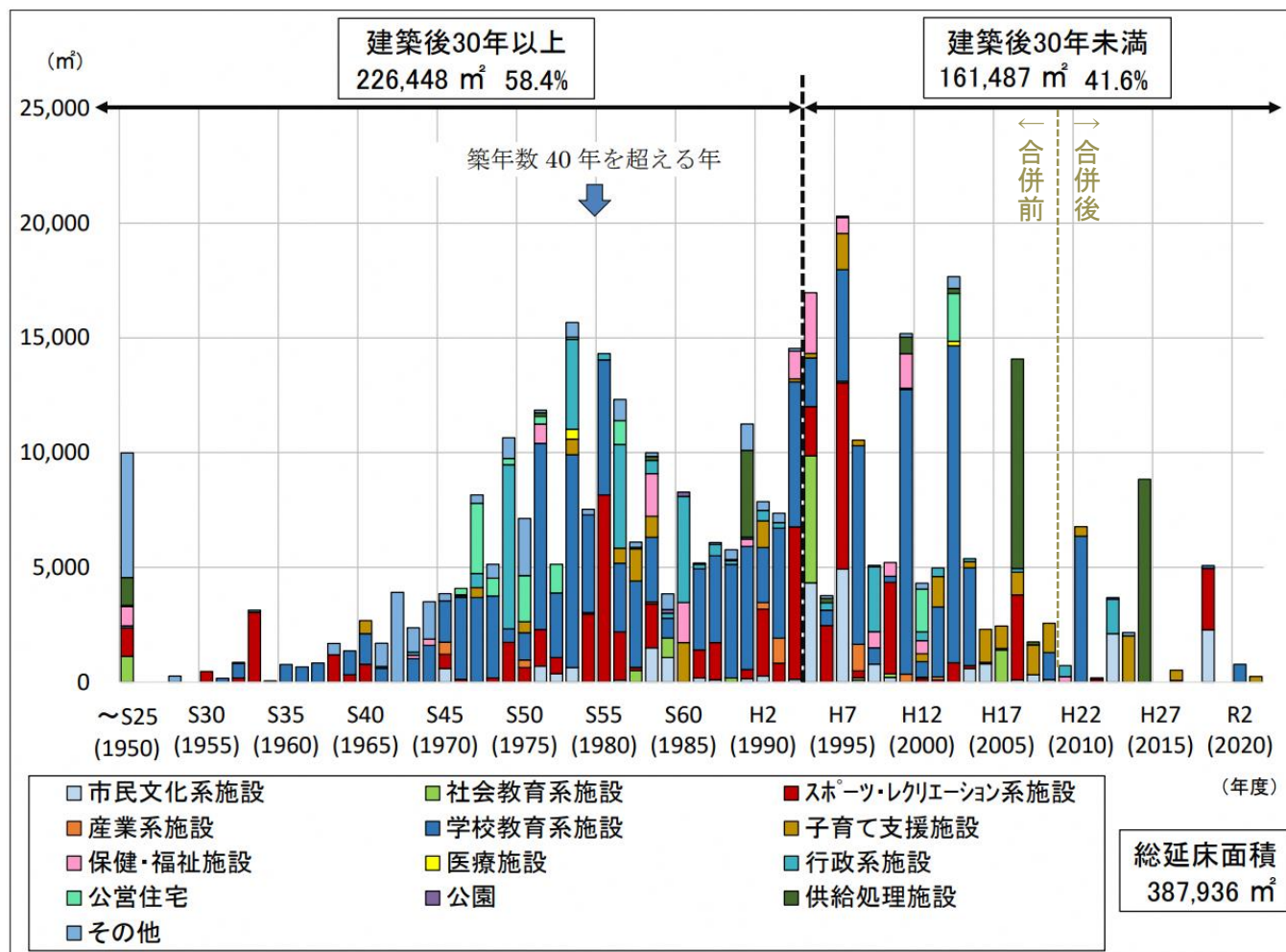


図 公共施設の建築年度別整備床面積 出典：村上市公共施設等総合管理計画

⑥ 災害（村上市街地）

■ 村上市街地では洪水や土砂災害のリスクがあり、三面川沿川では5.0m以上の浸水や家屋倒壊等の恐れがある

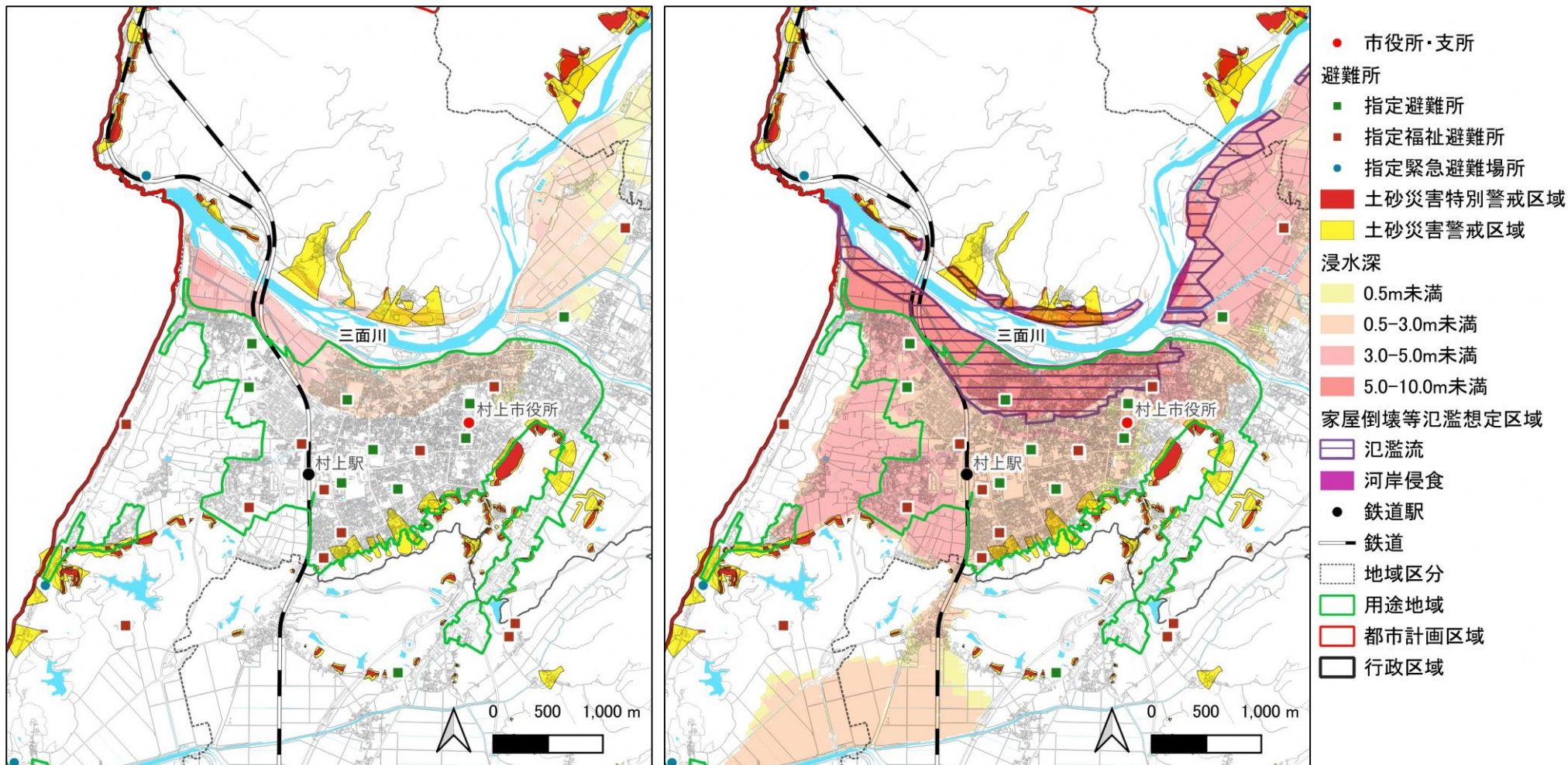
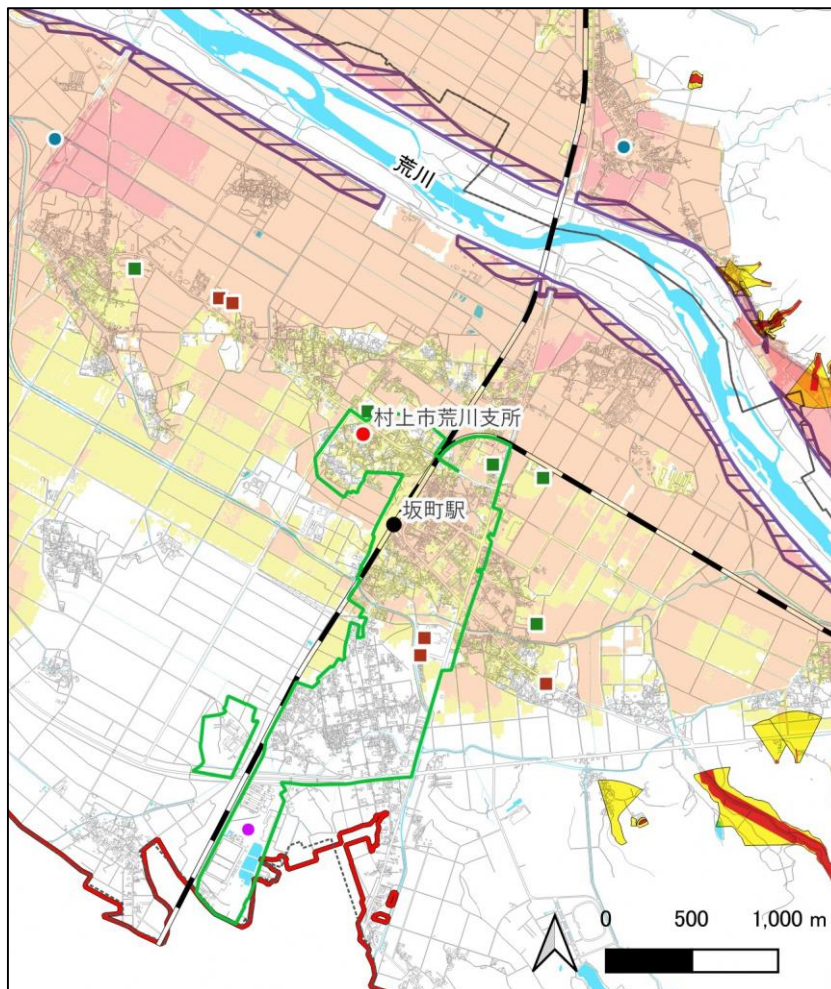
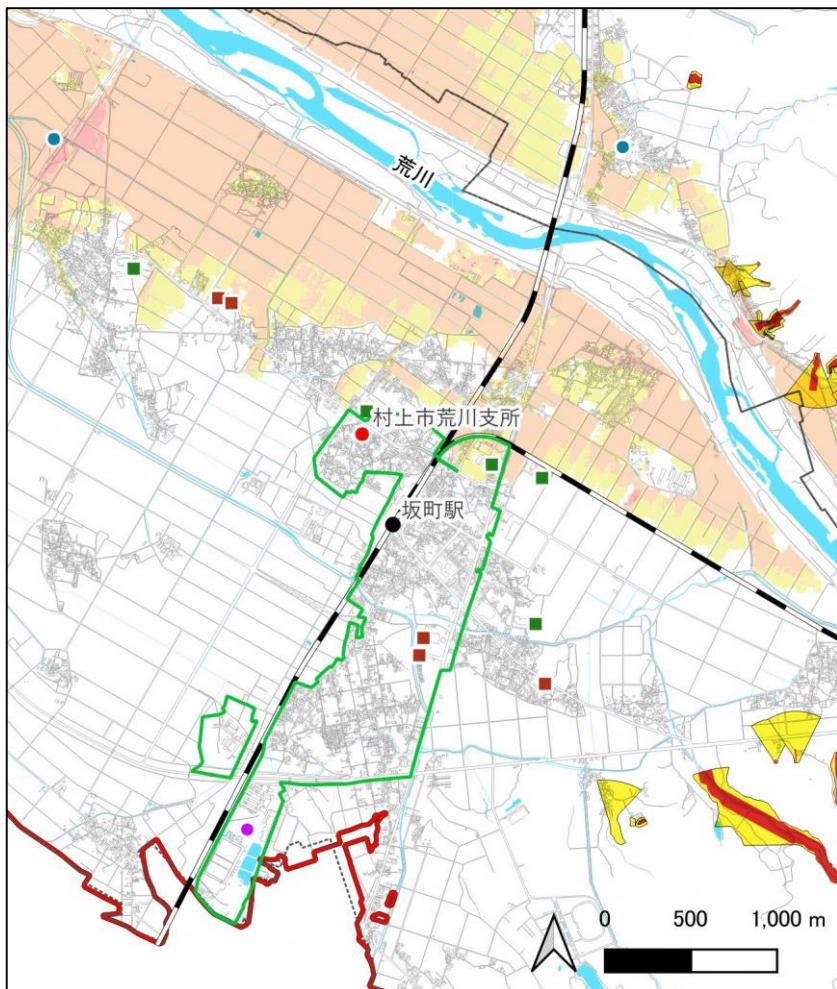


図 浸水想定区域（三面川 左：計画規模L1 右：想定最大規模L2）出典：新潟県洪水浸水想定区域図 14

⑥ 災害（荒川市街地）

■ 荒川市街地では洪水のリスクがあり、坂町駅周辺で0.5～3.0m未満の浸水の恐れがある



- 市役所・支所
- 避難所
 - 指定避難所
 - 指定福祉避難所
 - 指定緊急避難場所
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 浸水深
 - 0.5m未満
 - 0.5～3.0m未満
 - 3.0～5.0m未満
 - 5.0～10.0m未満
- 家屋倒壊等氾濫想定区域
 - 氾濫流
 - 河岸侵食
- 鉄道駅
- 鉄道
- ⋯ 地域区分
- 用途地域
- 都市計画区域
- 行政区

出典：羽越河川国道事務所洪水浸水想定区域

図 浸水想定区域（荒川 左：計画規模L1 右：想定最大規模L2）

⑥ 災害（海岸線沿い）

■ 海岸沿いでは海岸に山地が近接し、津波や土砂災害のリスクが重
なっている存在

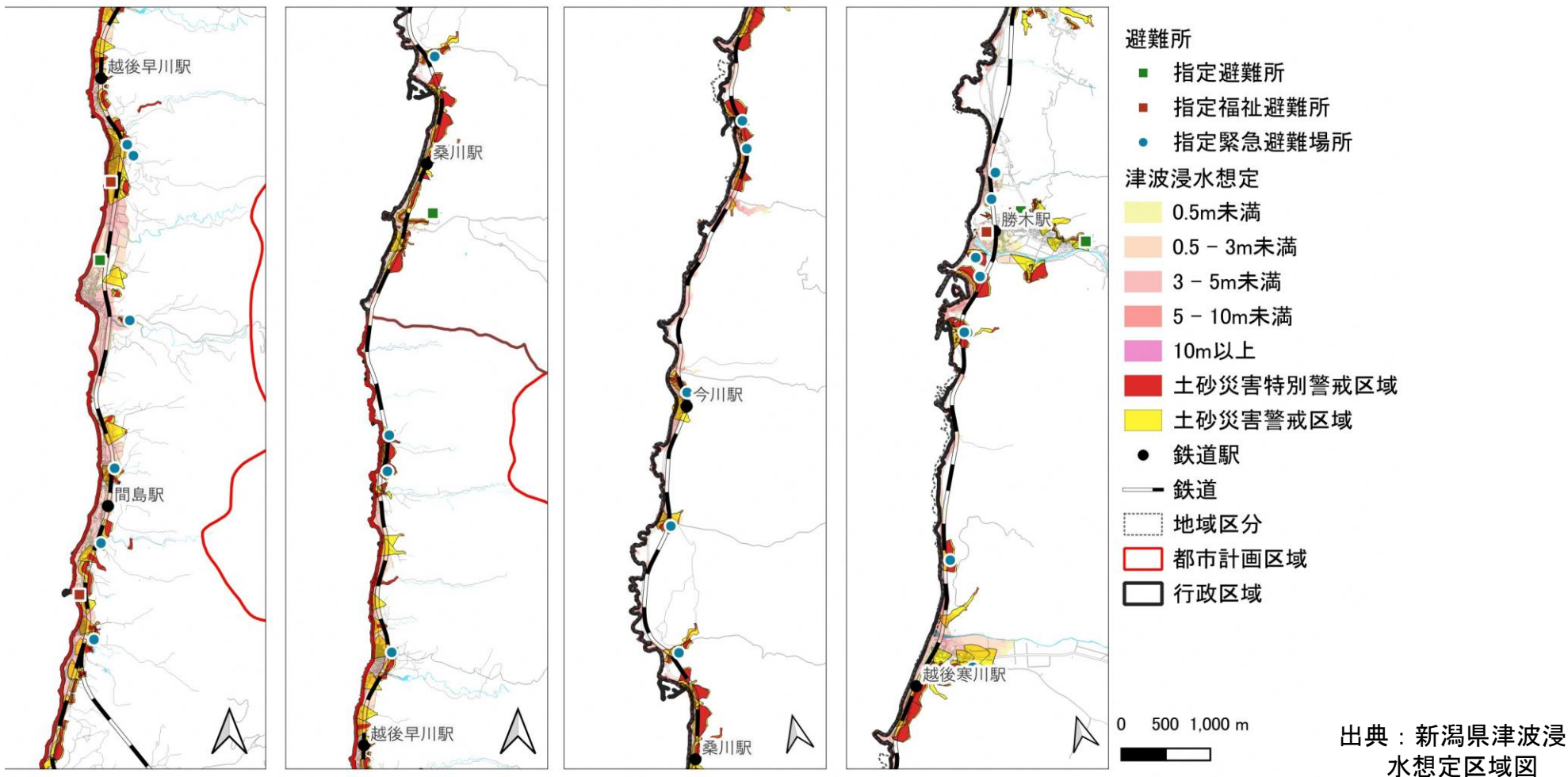


図 津波浸水想定区域

⑦ 都市の現況まとめ

人口

- 市の人口は一貫して減少し令和32年には現在の約半数まで減少
- DIDは村上駅西側等が拡大しているが、人口密度は令和2年に40人/haを下回る
- 人口分布は村上駅東側周辺の人口密度が高く40人/haを越え、そのほか岩船港周辺が40人/ha前後、坂町駅周辺が30人/ha前後
- 今後も市全体の人口減少や高齢化が進み、市街地では村上駅東側や岩船市街地で人口密度が大きく減少する予想

土地利用

- 市街地内では、村上駅東側は住宅や商業施設等の土地利用が混在し、公共公益施設も多く市の中心的な拠点を形成している一方、人口減少や高齢化等により空き家が増加
- 村上駅西側は近年に開発等が進み住宅地や病院、店舗等が立地しており、区画整理等により道路等の都市基盤も整備され生活利便性が高い
- 村上市街地や荒川市街地の国道7号沿道には大型商業施設が立地し、市民の買物等の拠点となっている

都市機能

- 医療・福祉・商業等の生活サービス施設は村上市街地や村上地域・荒川地域の国道7号沿道に一定の集積が見られる
- 村上市街地の病院や文化・交流、教育等の公共施設、国道7号沿道の商業施設等は、市内各地からの利用があり、市全体の都市サービスを担っている
- 村上駅前の大規模跡地では、観光・市民交流等の複合施設等の整備を予定している

⑦ 都市の現況まとめ

公共交通

- 公共交通利用圏は各市街地や海岸沿い・幹線道路沿い等の集落部を鉄道・コミュニティバスがカバーし、公共交通路線がないエリアではのりあいタクシーにより市内各地から村上市街地までの最低限の移動手段を確保
- バス路線のうち運行頻度が30本以上/日（公共交通便利地域）であるのは村上市街地の循環路線のみ
- 市全体の人口減少等による利用者数の減少等に伴い、今後さらに運行頻度等の公共交通のサービスレベル低下の恐れがある

財政

- 建築後30年以上の公共施設が約6割で、今後施設の更新費等の増加が見込まれ、財政負担が大きくなることが懸念される

災害

- 荒川や三面川等、多数の河川流域に居住地域が集中しているため、各河川の周辺で洪水のリスクがある
- 三面川河口から北側の海岸線沿いは海岸に山地が近接しており、これらのエリアにも居住地が存在するため津波や土砂災害のリスクが重なって存在
- 市街地は荒川や三面川等の河川に近接していることから、広範囲に洪水のリスクがあり、特に三面川沿川では5.0m以上の浸水が想定され、家屋の流失や人的被害等が発生する恐れがある

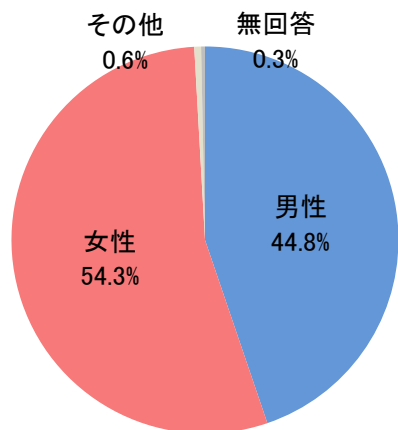
(2) 市民アンケート調査

① 調査概要

項目	内容	
調査期間	令和7年8月27日～令和7年9月17日（22日間） ※締め切り遅延分も集計	
対象者	市内にお住まいの満18歳以上の方々から無作為に3,000人を抽出	
実施方法	・ 郵送で配布 ・ 回答用紙の返信またはインターネットによる回答	
配布数	3,000通	
回答数	1,235通（郵送：915通 インターネット回答：320通）	
回答率	41.2%	
質問内容	a) 将来の村上市	必要な取組、まちの課題、公共施設の維持更新 等
	b) 普段の生活行動	施設（最寄品、病院・医院等）の利用頻度・場所
	c) 今後の住まい	転居の予定、転居の希望場所、重視する点 等
	d) 防災対策	災害時の不安要素、重要な防災対策 等
	e) 属性	性別、年齢、居住地区、職業、世帯構成 等

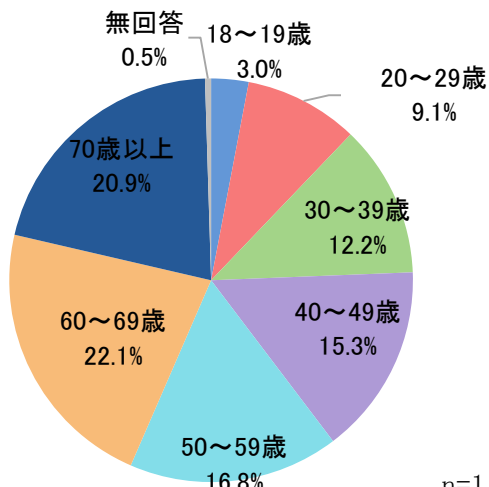
② 調査結果【属性】

○回答者の属性



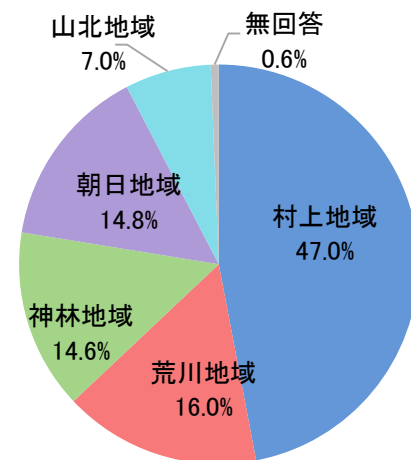
性別

n=1,235



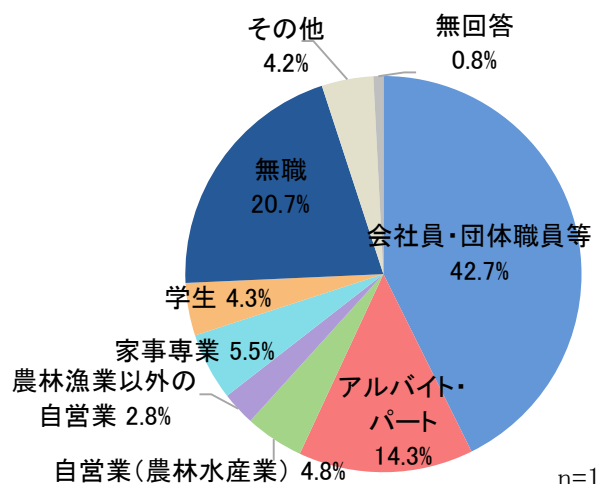
年齢

n=1,235



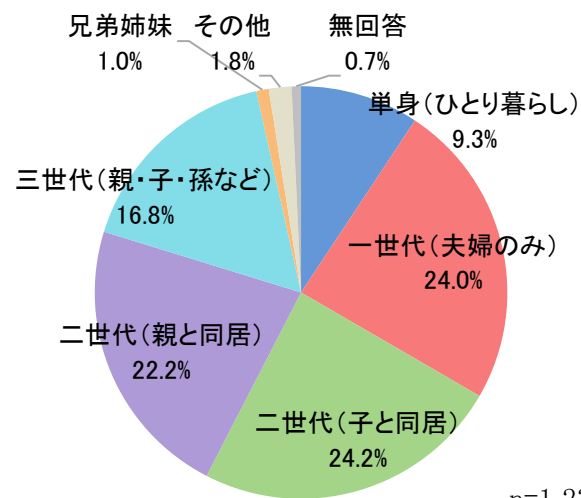
居住地域

n=1,234



職業

n=1,233



世帯構成

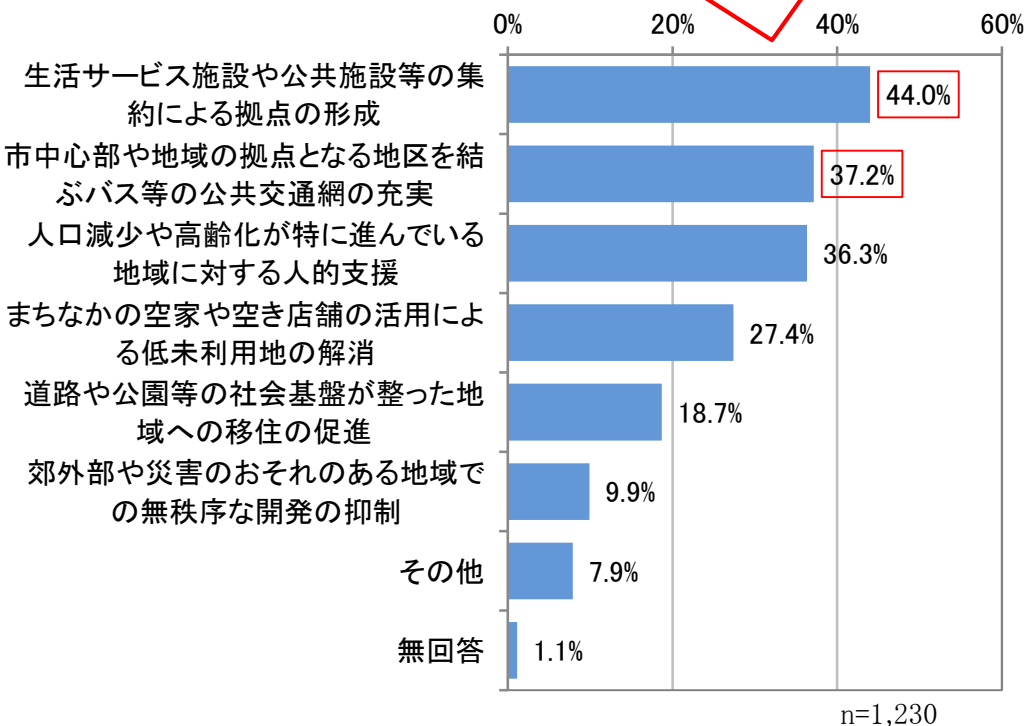
n=1,235

② 調査結果【a）将来の村上市】

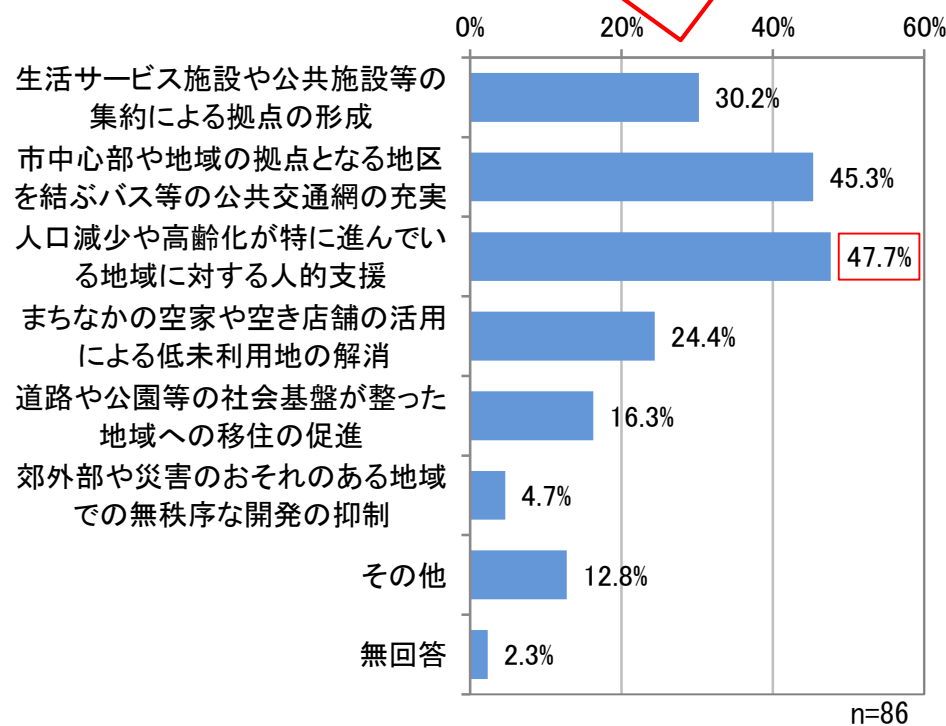
質問 村上市を持続可能な都市にするためにどのような取り組みが必要か？

「生活サービス施設等の集約による拠点形成」や「公共交通網の充実」が多い

山北地域では「人口減少・高齢化が進む地域への支援」が多い



全体

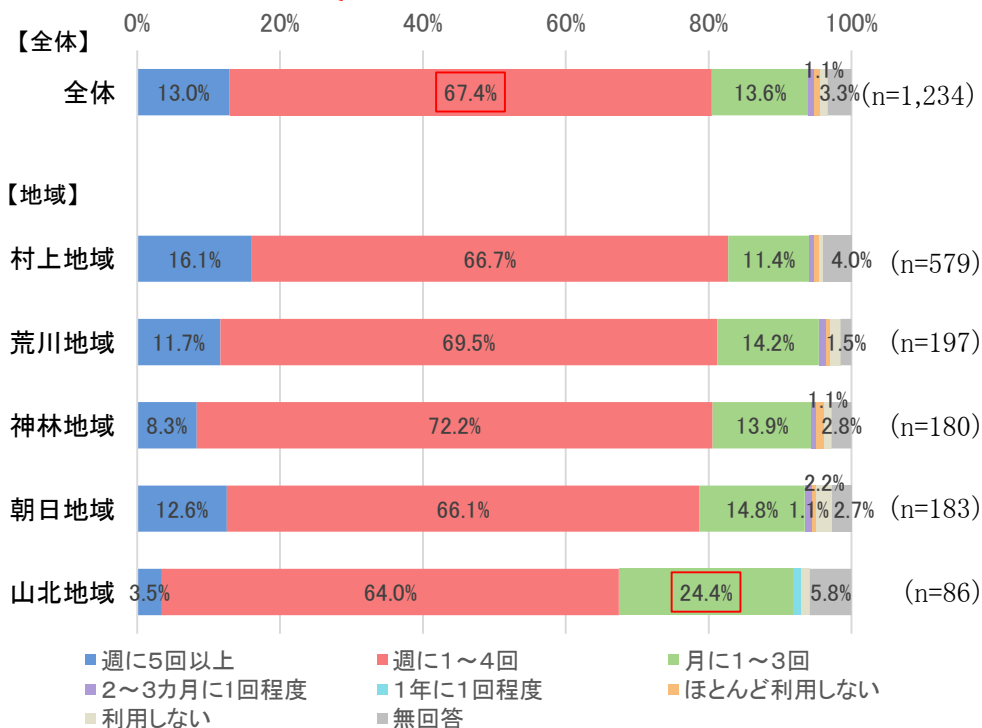


山北地域

② 調査結果【b）普段の生活行動】

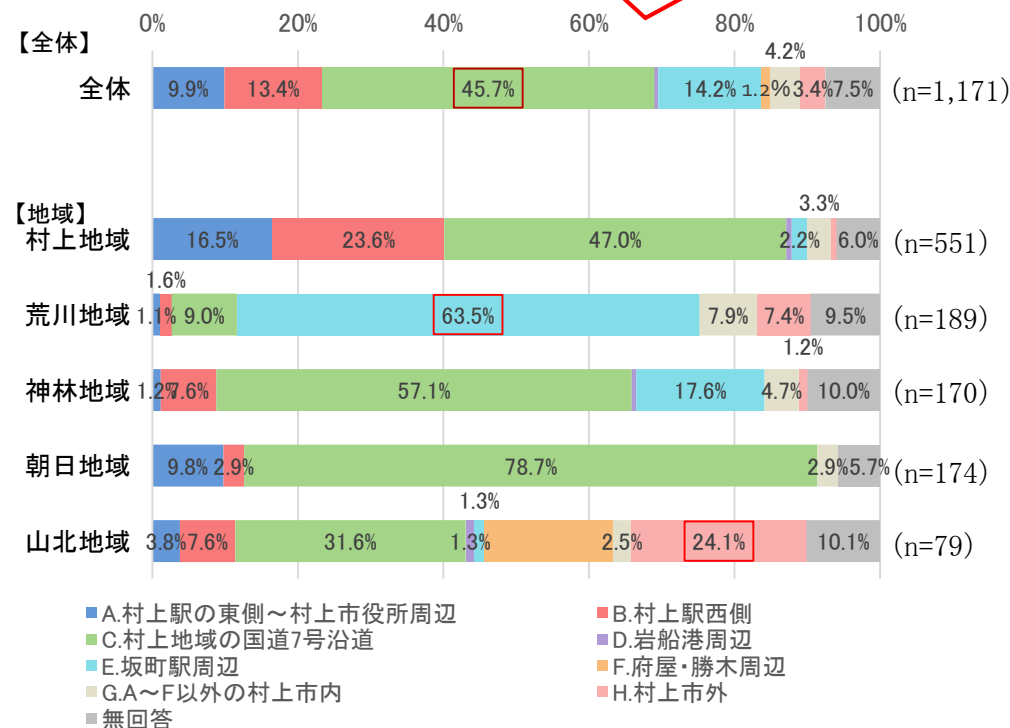
質問 食料品、日用品等の買物（最寄品）の施設をどのように利用しているか？

全体は週に1～4回の人が多く、山北地域は月に1～3回の人が多い



利用頻度

全体は「村上地域の国道7号沿道」が多く、荒川地域は「坂町駅周辺」、山北地域は村上市外が多い

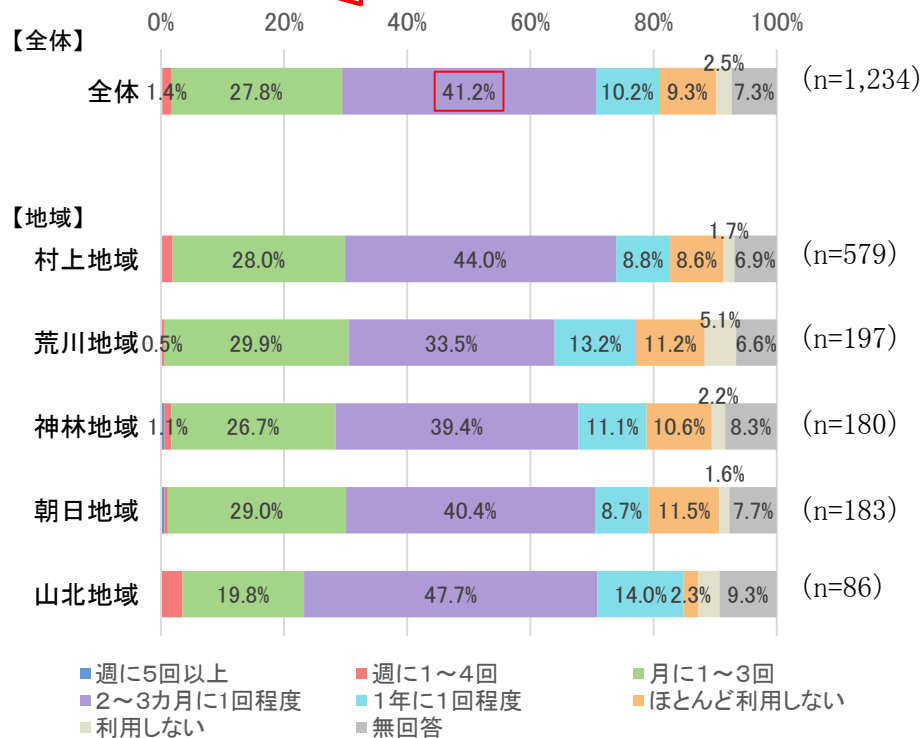


利用場所

② 調査結果【b）普段の生活行動】

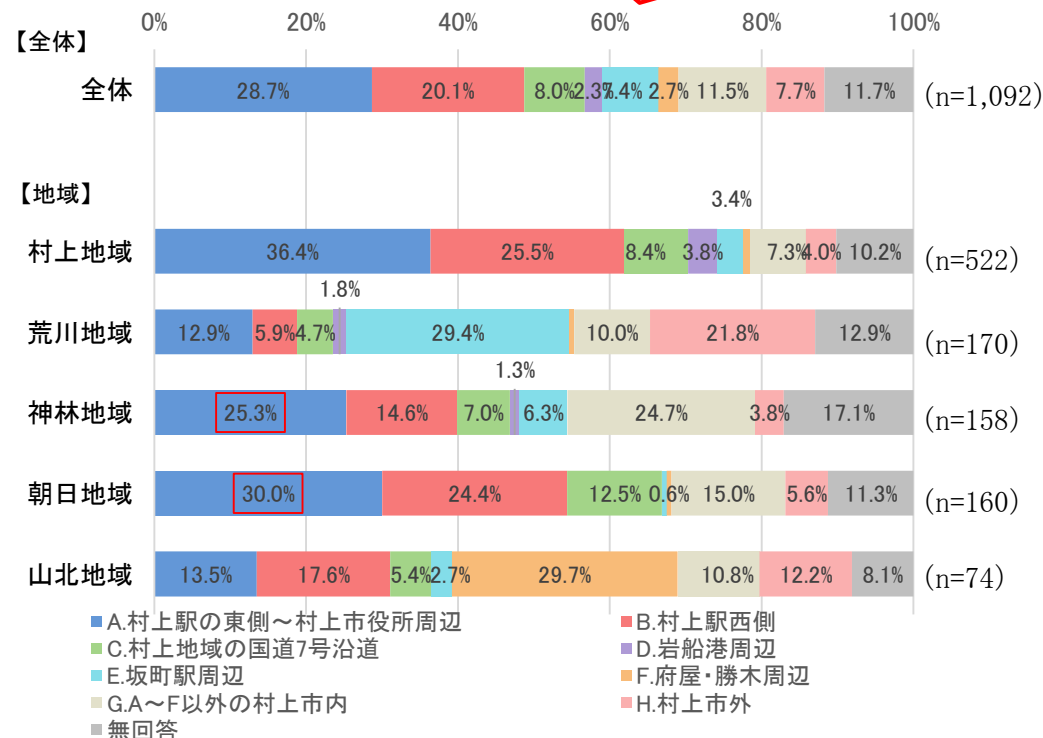
質問 病院、個人医院等の施設をどのように利用しているか？

2～3か月に1回利用する人が最も多い



利用頻度

各地域の近い場所の施設利用が多く、神林地域、朝日地域は村上駅東側の利用が多い

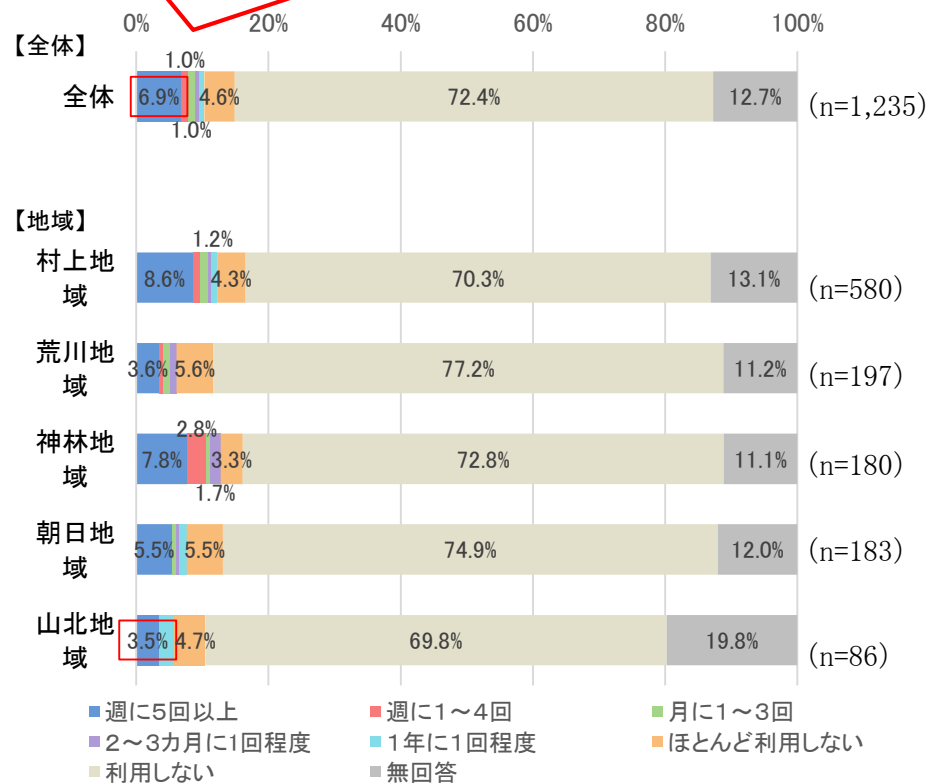


利用場所

② 調査結果【b）普段の生活行動】

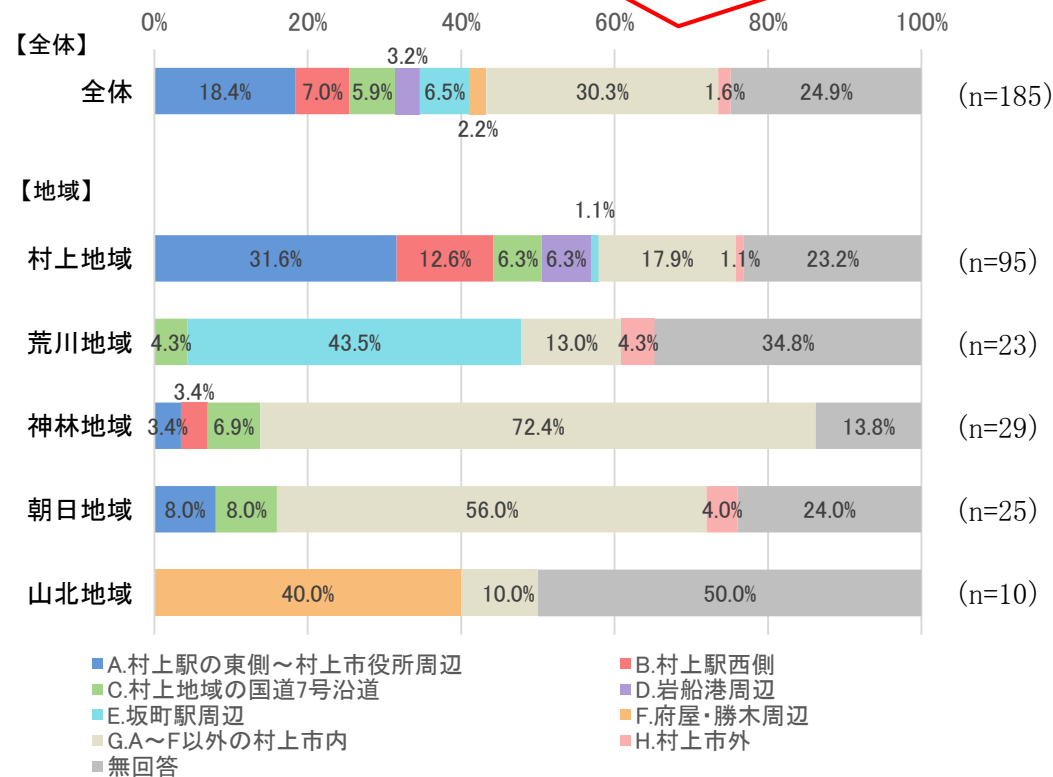
質問 幼稚園・保育園、子育て支援施設等をどのように利用しているか？

利用している人の中では週に5回以上が最も多い



利用頻度

利用場所は各地域の近い場所の施設利用が多い

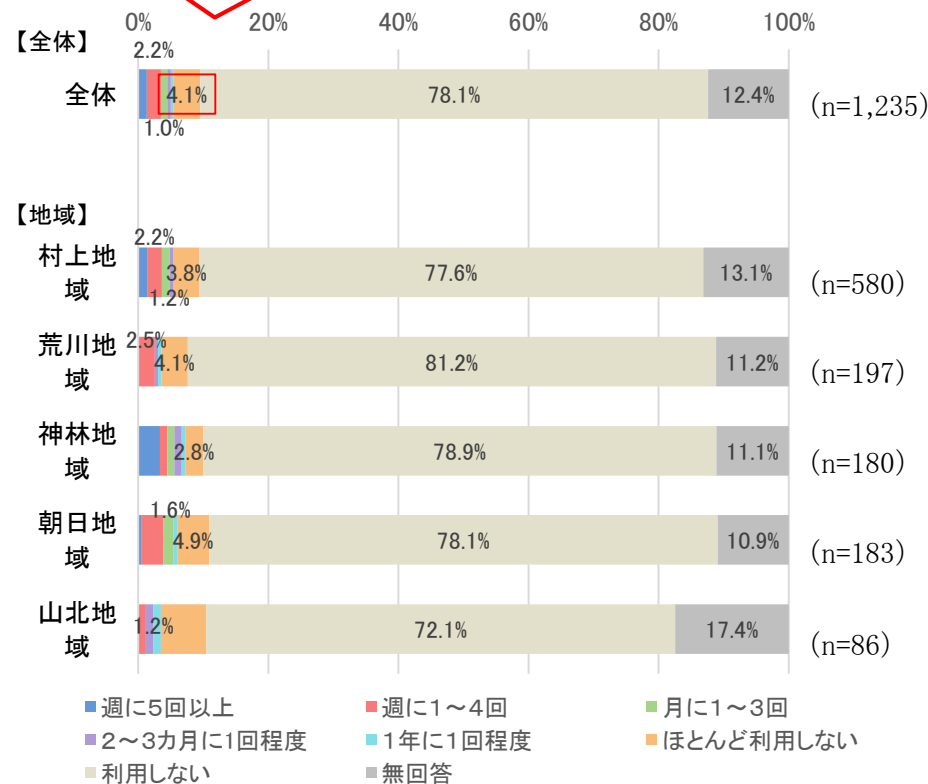


利用場所

② 調査結果【b）普段の生活行動】

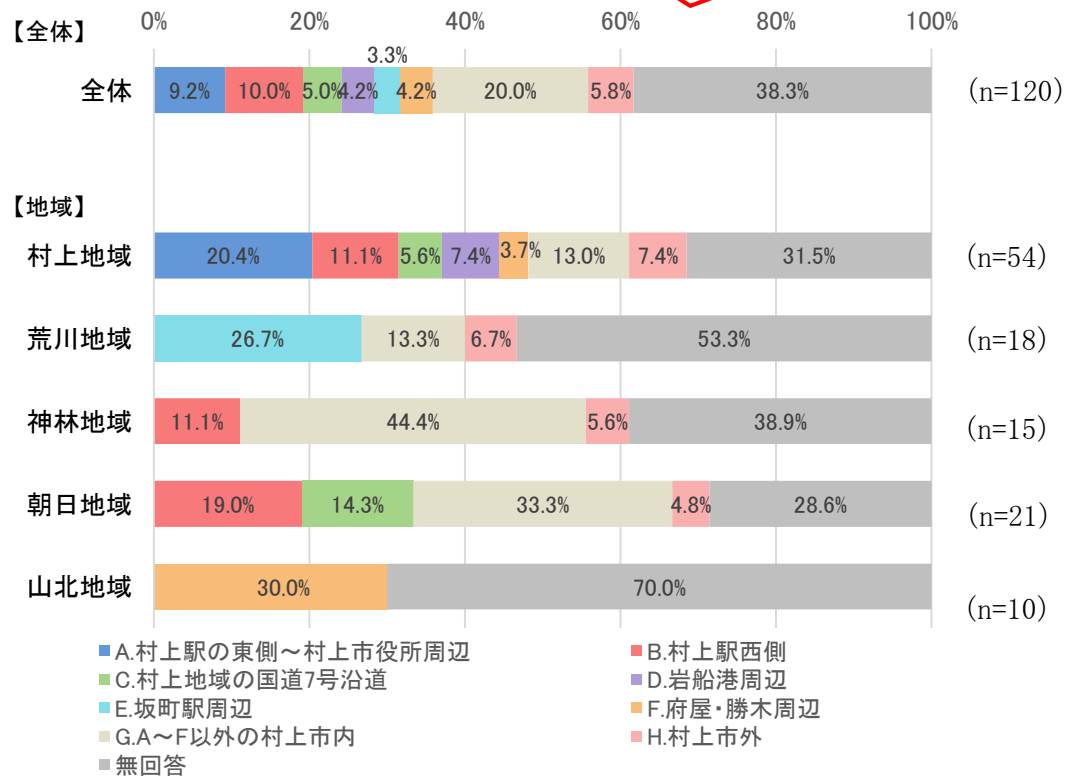
質問 介護・福祉施設をどのように利用しているか？

利用している人の中でも「ほとんど利用しない」が最も多い



利用頻度

利用場所は各地域の近い場所の施設利用が多い



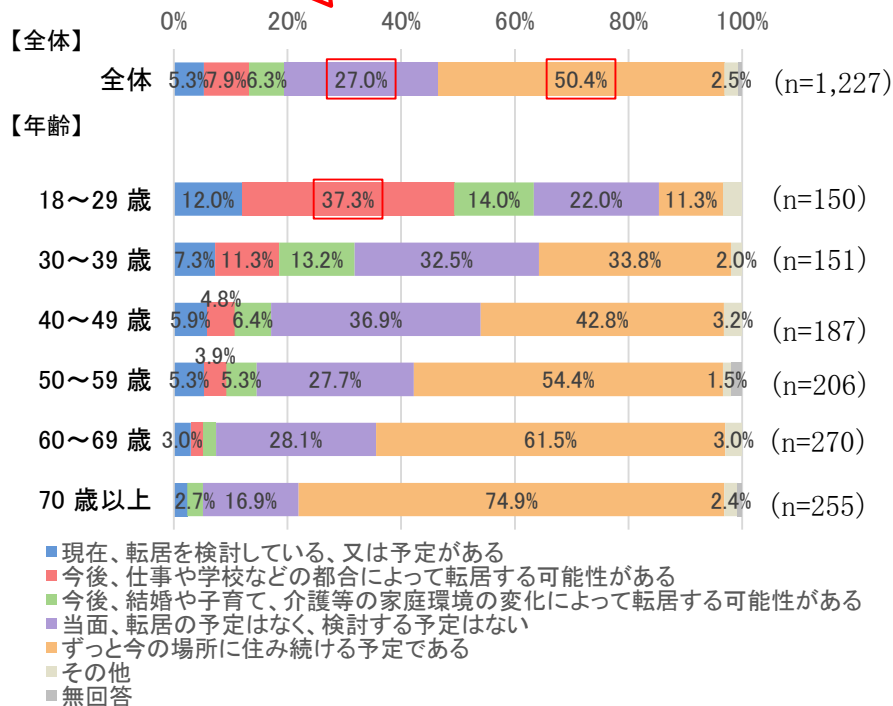
利用場所

② 調査結果【c）今後の住まい】

質問

将来の住まいについてどのように考えているか？

「今の場所に住み続ける」が最も多い一方、若い世代ほど転居の予定、可能性がある人が多い

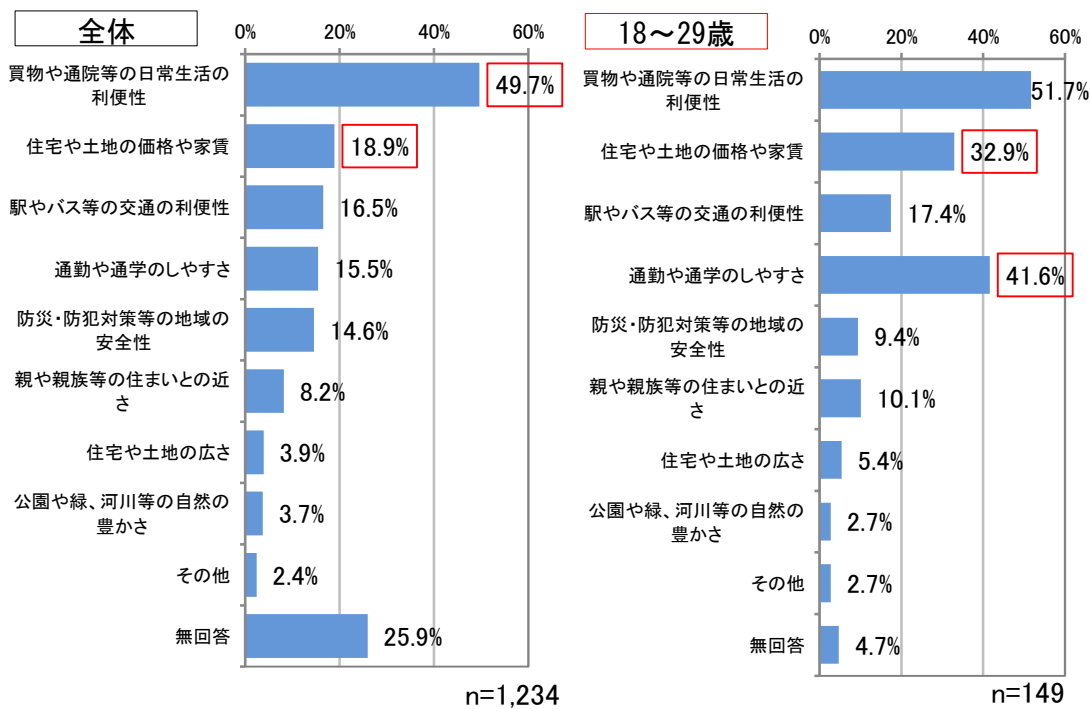


転居の意向

質問

転居をする場合、転居先はどのような点を重視するか？

転居予定のある人が多い若い世代は全体と比較して「通勤・通学のしやすさ」を重視する傾向にある



転居先で重視する点

③ まとめ

将来の 村上市

- 今後人口減少や高齢化が進んでいくなかで、生活サービス施設等の集約による拠点形成や公共交通網の充実が必要という意見が多い
- 山北地域では人口減少・高齢化が進む地域への支援が必要という意見が多い

居住

- 全体として現在の居住地での居住を続ける意向が強いが、若い世代は今後の転居の意向が強い
- 転居の意向が強い若い世代においては、居住地を選択する際、買物や通院等の日常生活の利便性のほか、通勤や通学のしやすさを重視する傾向にある

都市 機能

- 医療・福祉・子育て支援等の生活サービス施設は各地域の施設利用が多く、神林地域や朝日地域では一部村上市街地の施設を利用する傾向がある
- 最寄品の利用は全体的に村上地域の国道7号沿道が多く、荒川地域は坂町駅周辺、山北地域は村上市外の利用も多い

(3) 立地適正化に向けた課題と方針

① コンパクトな都市づくりに向けた課題整理

1. 人口減少・低密度化に対応した拠点への人口集積の必要性

■市全体では人口減少と高齢化が進行し、市街地の人口密度の低下や空き家の増加が顕著となり、市街地の生活サービスの維持や集落での地域コミュニティの継続が危惧される状況

⇒市全体の持続性を確保するため、生活利便性が高い拠点市街地への居住誘導を図り、広域に分散した人口構造を徐々に是正していく必要がある

⇒住宅地の空き家増加への対策と適切な土地利用誘導による「住み続けられる都市構造」への転換が求められる

2. 混在・分散した土地利用の整理と拠点ごとの役割強化

■村上市は幹線道路沿線や山裾・海岸部等に集落が分散し、村上駅東側では混在した土地利用と空き家増加、駅西側は比較的新しい住宅地を形成

■また、国道7号沿道の大型商業施設の立地により拠点が持つべき商業・交流の役割が十分に発揮されていない等、土地利用の偏りや役割の曖昧さが、地域資源の効率的な活用を妨げ、拠点の魅力低下につながっている

⇒村上駅周辺や坂町駅周辺といった主要拠点にふさわしい住宅・商業・公共施設の集約等の土地利用を誘導し、既成市街地の更新・再編を促すとともに、沿道型開発との役割分担が重要

① コンパクトな都市づくりに向けた課題整理

3. 都市機能・公共交通の偏在や拠点間連携不足の是正

- 医療・福祉・商業・行政などの都市機能は村上市街地や国道7号沿道に偏在し、地域によっては最寄品購入や医療受診に不便を抱える地区があり、一部市外依存が生じている
- 公共交通は鉄道・バス・乗合タクシーにより最低限の移動手段は確保されているものの、人口減少に伴う利用者減によって運行維持が困難となる
⇒拠点と公共交通を結びつけたネットワークの再編や多様な移動手段の組み合わせが必要であり、生活圏と交通圏を一体的に捉えた都市構造への転換が求められる

4. 都市基盤の老朽化・財政制約と広域災害リスクへの対応の必要性

- 都市基盤の老朽化が進行し、公共施設の約6割が築30年以上と更新・修繕が集中するため、将来の維持管理費の増大が市財政に大きな負担となる
- 市街地の洪水リスクや、海岸部の津波や土砂災害リスクの重複など、多様で広範囲の災害危険性があり、避難経路の制限が大きい地域も存在
⇒限られた財源の中で、安全性を確保しつつ優先すべき都市基盤を選択的に整備する必要がある、都市の再編にあたってはハード・ソフト両面の対策により、災害に強く持続可能な都市基盤の形成が求められる

② 立地適正化に向けたまちづくりの方針

上
位
関
連
計
画
の
方
針

都
市
が
抱
え
る
課
題

立地適正化に向けたまちづくりの方針

1. 居住に関する方針

「持続可能な生活圏を確保するため、拠点への居住集積を図る」

- 生活サービスや公共交通へのアクセスがよい市街地（村上・荒川・岩船）を中心に、人口密度維持に向けた居住の誘導を図る
- 郊外や災害リスクの高い地域での無秩序な居住拡散を抑えつつ、基幹集落では既存コミュニティの維持を支援する
- 空き家や低未利用地等を活用し、子育て世帯や高齢者も暮らしやすい生活環境を構築する

2. 都市機能に関する方針

「拠点ごとの役割に応じて都市機能を集積し、利便性とにぎわいを高める」

- 村上市街地を医療・行政・商業・交流機能が集まる中心拠点として強化し、周辺地域と連携したサービス提供を図る
- 荒川・岩船などの生活拠点では、日常の買物や福祉サービスなど、地域生活を支える機能を適切に確保する
- 公共施設や公益施設の再編・複合化など、既存ストックを有効活用し、持続可能な都市サービスの提供体制を構築する

② 立地適正化に向けたまちづくりの方針

上位関連計画の方針

都市が抱える課題

立地適正化に向けたまちづくりの方針

3. 公共交通に関する方針

「拠点間をつなぎ、市内のどこからでも移動しやすい公共交通体系を維持・再編する」

- 鉄道・バスを骨格に拠点間を確実に結び、生活圏に応じて乗合タクシー等を組み合わせた効率的なネットワークを構築する
- 地域ごとの利用状況に応じた路線の最適化やデマンド交通への転換を進め、移動手段の確保と持続可能な運行を両立する
- 拠点を基点とする公共交通と居住誘導・都市機能誘導を連動させ、公共交通が使いやすい都市構造を形成する

4. 防災に関する方針

「洪水・津波・土砂災害などの複合リスクに備え、安全な居住と都市機能の配置を進める」

- 災害リスクに応じて安全性の高い地域に居住・都市機能を誘導し、高リスク地域での新たな開発は抑制する
- 避難経路や避難場所の確保、浸水対策、土砂災害対策など、ハード・ソフト両面の取組みを組み合わせ、地域の防災性を強化する
- 中心市街地の更新や拠点整備に際しては、防災機能の向上も一体的に進め、災害に強い都市構造への再編を図る

③ 目指すべき都市の骨格構造（拠点）

●都市拠点（村上市街地、荒川市街地）

- ・ 市や地域の中心的な拠点として、日常生活に必要な生活サービス機能や各種の都市機能が集積し、基幹的な公共交通結節点として市内各所から容易にアクセス可能な地区
- ⇒ 人口の集積を図り、利便性やまちのにぎわい・魅力の更なる向上を目指す

●地域拠点（府屋・勝木周辺）

- ・ 周辺地域の拠点として日常的な生活サービス施設等により一定の利便性が確保され、周辺地域から容易にアクセス可能な地区
- ⇒ 一定の人口維持を図り、現在の住環境と施設立地の維持を目指す

●コミュニティ拠点（神林支所周辺、道の駅朝日周辺）

- ・ 周辺地域のコミュニティの拠点として、交流・集会施設等が立地し、周辺地域から容易にアクセス可能な地区
- ⇒ 一定の人口維持を図り、ゆとりある生活環境と地域コミュニティの維持を目指す

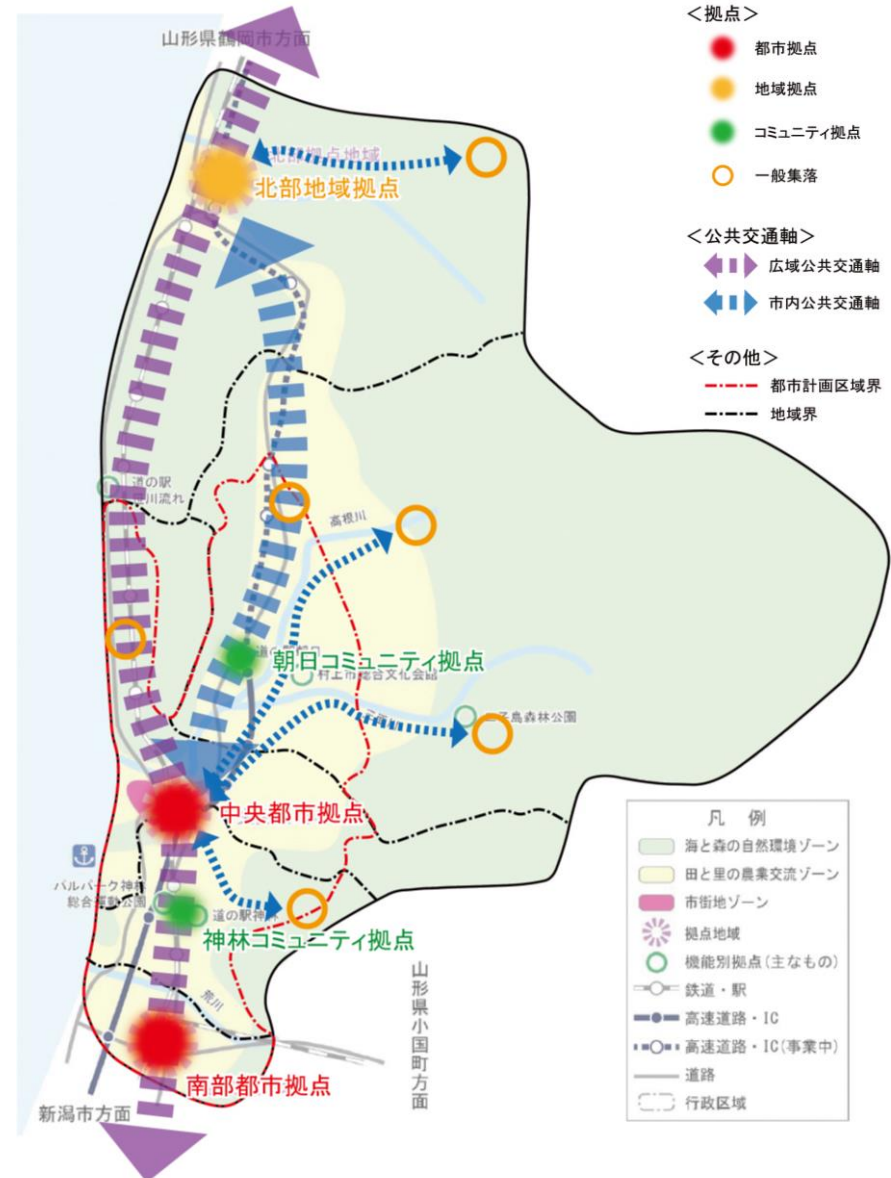


図 都市の骨格構造のイメージ

③ 目指すべき都市の骨格構造（公共交通軸）

● 広域公共交通軸（鉄道）

- ・ 都市拠点を中心に地域拠点や山形県鶴岡市、新発田市、新潟市等の近隣都市を結ぶ都市軸として、一定水準以上のサービスで運行する公共交通軸
- ・ JR羽越本線の区間を広域交通軸として設定

● 市内公共交通軸（コミュニティバス）

- ・ 都市拠点、地域拠点、コミュニティ拠点と一般集落や各地域の居住地を結ぶ市内の公共交通軸
- ・ 村上市街地と各地域の集落部を結ぶ主要なコミュニティバスの区間を市内交通軸として設定

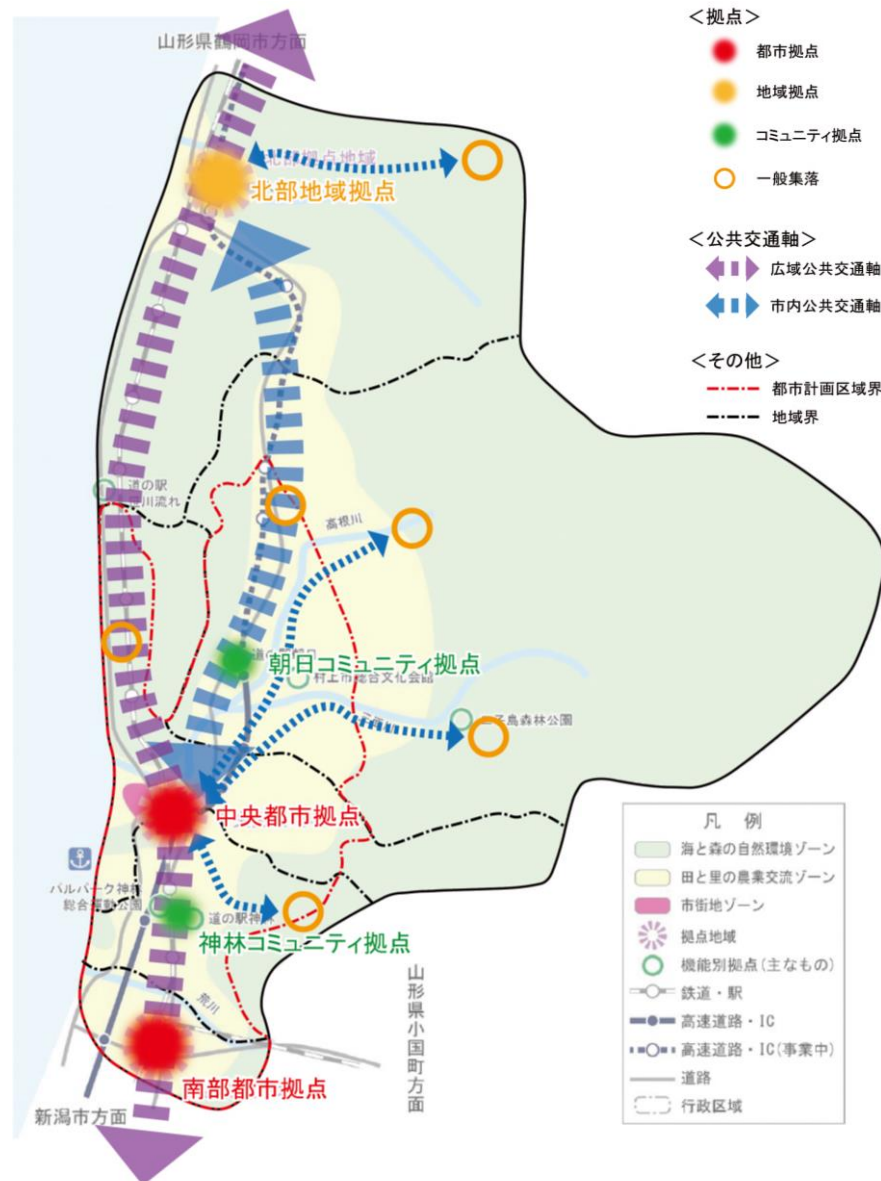


図 都市の骨格構造のイメージ